

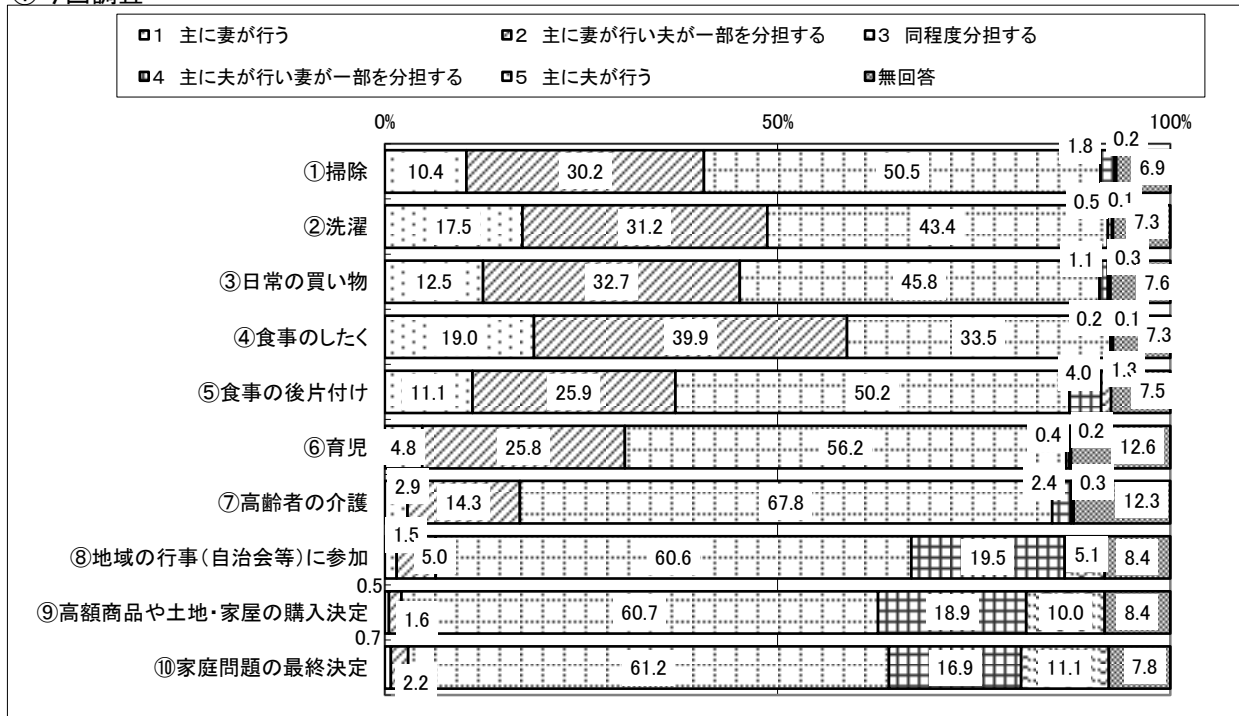
問9 理想としては、どのように分担するのがよいとお考えですか。
 次の①～⑩の項目ごとに1～5の中から1つずつ選んで○をつけてください。
 (N=943 男性=416 女性=527)

家事、家庭生活の役割分担の理想について、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」という回答が最も多いのは「食事のしたく」(58.9%)、次いで「洗濯」(48.7%)、「日常の買い物」(45.2%)であり、これは前回調査と同様の傾向である。

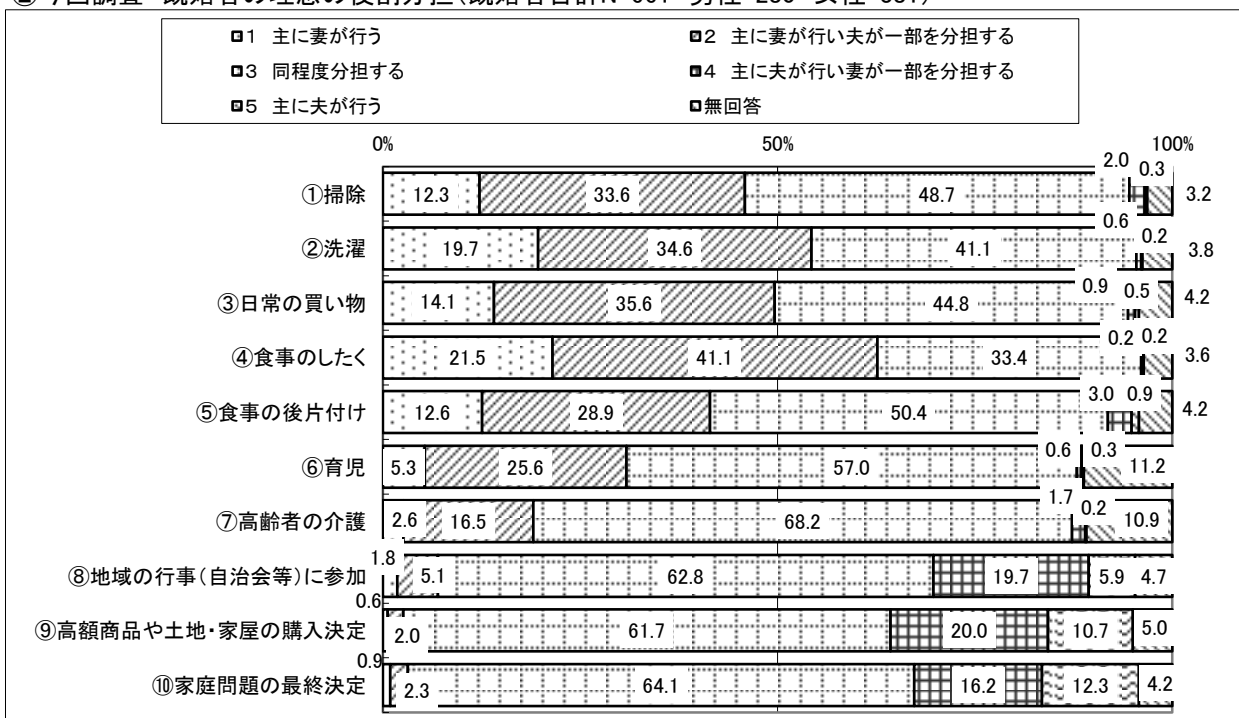
上位3つの項目以外は「同程度分担する」と回答した割合が最も多く、なかでも「高齢者の介護」については67.8%と最も高かった。

既婚者の理想の役割分担では「地域の行事(自治会等)に参加」「高額商品や土地・家屋の購入決定」「家庭問題の最終決定」以外の項目で「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した割合が多かった。

①今回調査



②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=661 男性=280 女性=381)



問9(1)理想の役割分担 掃除

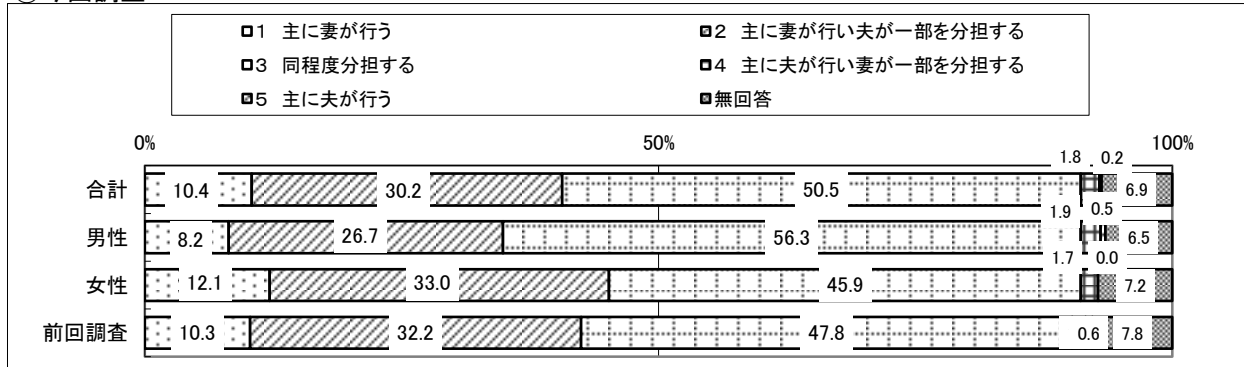
掃除の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは40.6%であり、前回調査(42.5%)より1.9ポイント減少している。

男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(34.9%)は前回調査(40.0%)より5.1ポイント減少し、女性(45.1%)は前回調査(44.5%)0.6ポイント増加している。

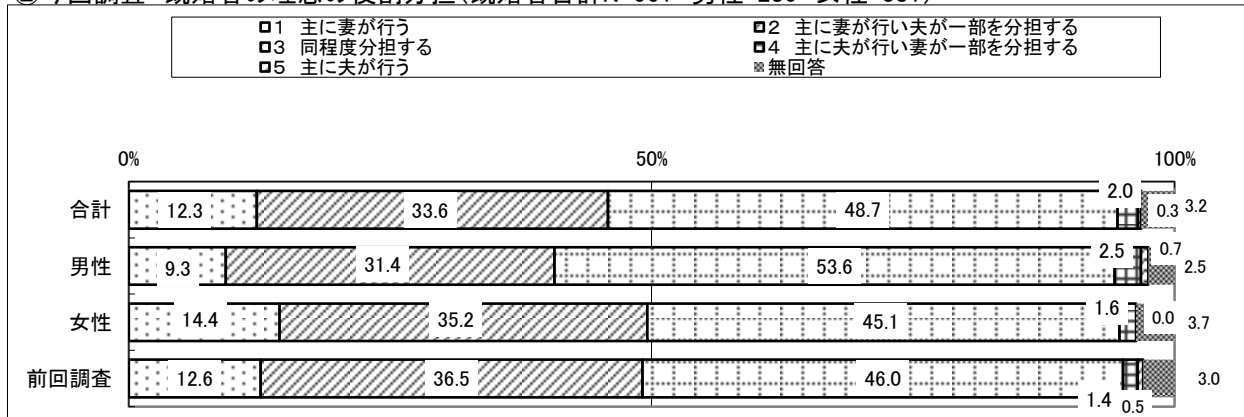
既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは45.9%であり、回答者全体(40.6%)と比較すると、5.3ポイント多い。

「同程度分担する」は回答者全体(50.5%)では過半数を超えたが、既婚者のみに着目すると48.7%と過半数を下回っている。

①今回調査



②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=661 男性=280 女性=381)

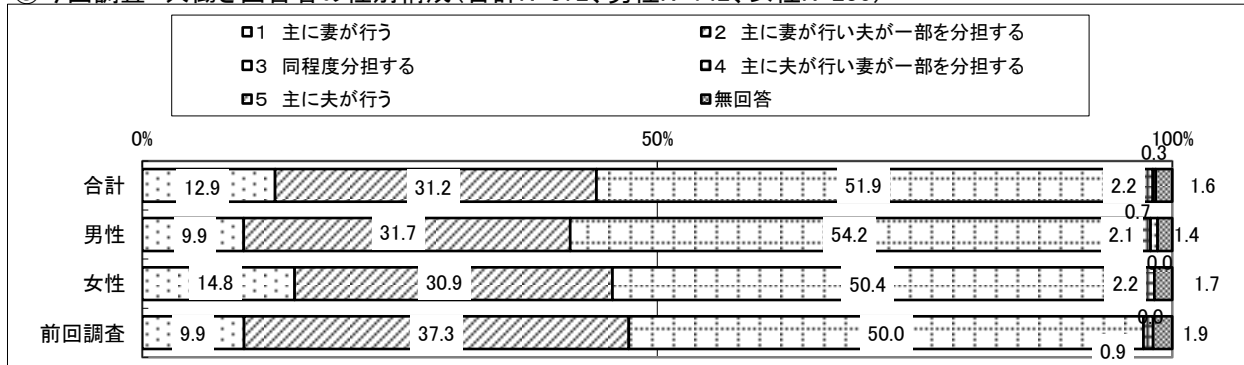


共働きの回答者に着目すると、掃除を主に誰が分担するか理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは44.1%であり、回答者全体(40.6%)より3.5ポイント多い。

前回調査(47.2%)と比較すると、3.1ポイント減少している。

男女別にみると、男性(41.6%)では前回調査(48.3%)より6.7ポイント減少、女性(45.7%)では前回調査(46.2%)より0.5ポイントと減少している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計N=372、男性N=142、女性N=230)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

N=943

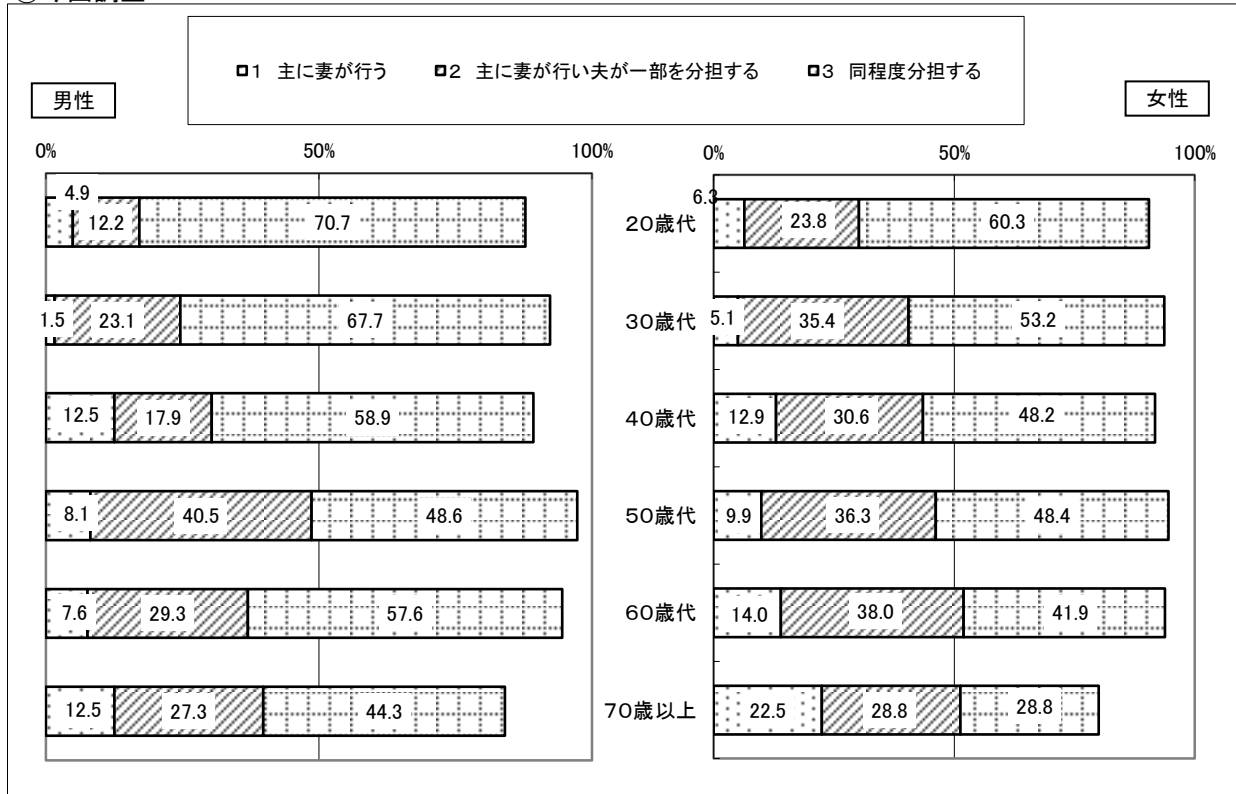
【男性】 20歳代=41 30歳代=65 40歳代=56 50歳代=74 60歳代=92 70歳以上=88

【女性】 20歳代=63 30歳代=79 40歳代=85 50歳代=91 60歳代=129 70歳以上=80

既婚者全体を年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものが最も多い年代は男性では50歳代(48.6%)、女性では60歳代(52.0%)である。

「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したもので、男女差が最もあった年代は「30歳代」であり、男性(24.6%)と女性(40.5%)では、女性の方が15.9ポイント多い。

④ 今回調査



※グラフから一部のデータを省略した。今回調査データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

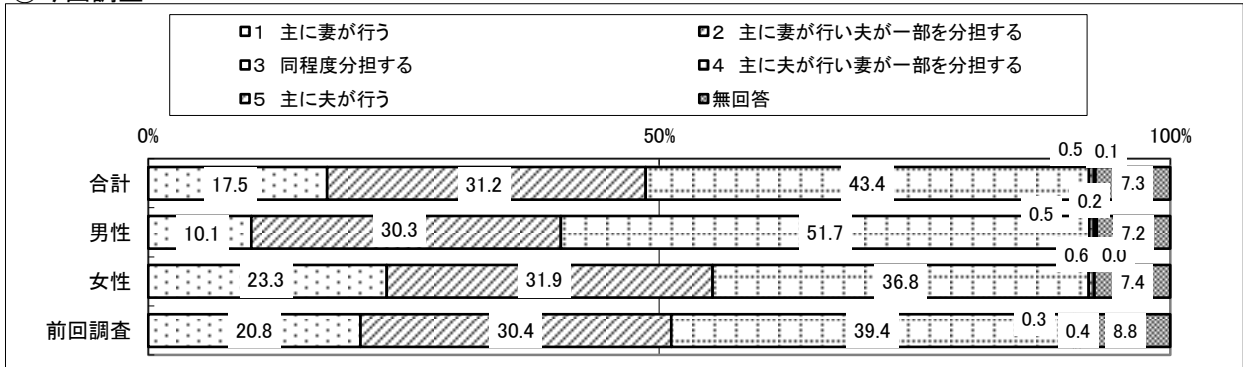
問9(2)理想の役割分担 洗濯

洗濯の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは48.7%であり、前回調査(51.2%)より2.5ポイント減少している。

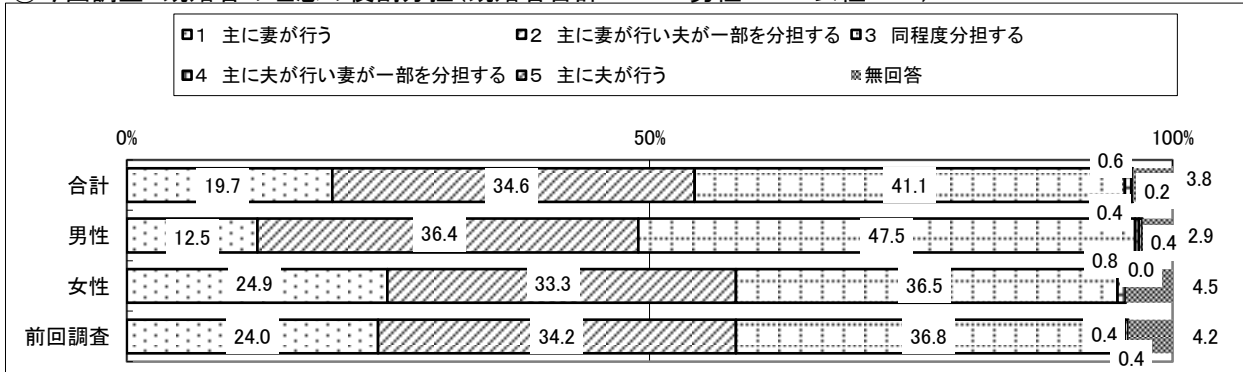
男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(40.4%)は前回調査(50.4%)より10ポイントと大幅に減少し、女性(55.2%)は前回調査(51.8%)より3.4ポイント減少している。

既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは54.3%であり、回答者全体(48.7%)と比較すると、5.6ポイント多い。

①今回調査



②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=661 男性=280 女性=381)



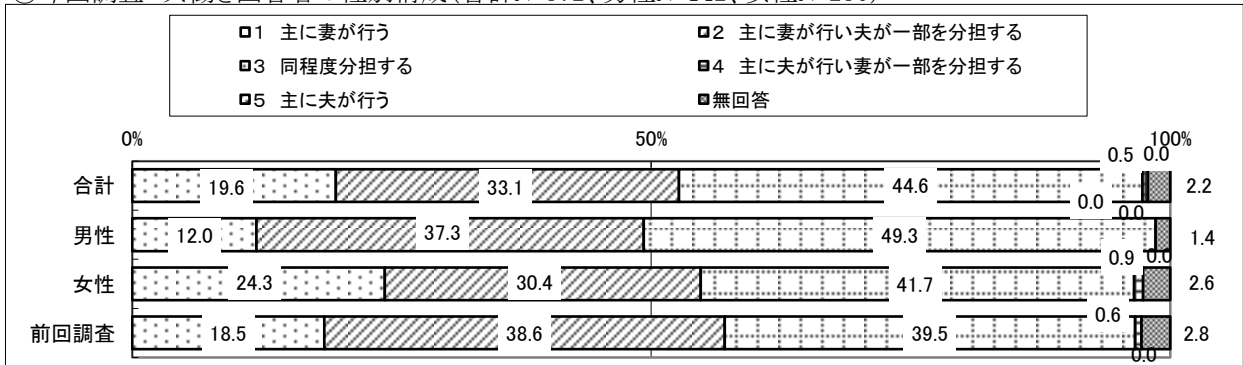
※グラフから一部のデータを省略した。データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

共働きの回答者に着目すると、洗濯を主に誰が分担するかの理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは52.7%であり、回答者全体(48.7%)より4ポイント多い。

前回調査(57.1%)と比較すると、4.4ポイント減少している。

男女別にみると、男性(49.3%)では前回調査(58.8%)より9.5ポイントと大幅に減少、女性(54.7%)では前回調査(55.6%)より0.9ポイント減少している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計N=372、男性N=142、女性N=230)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

N=943

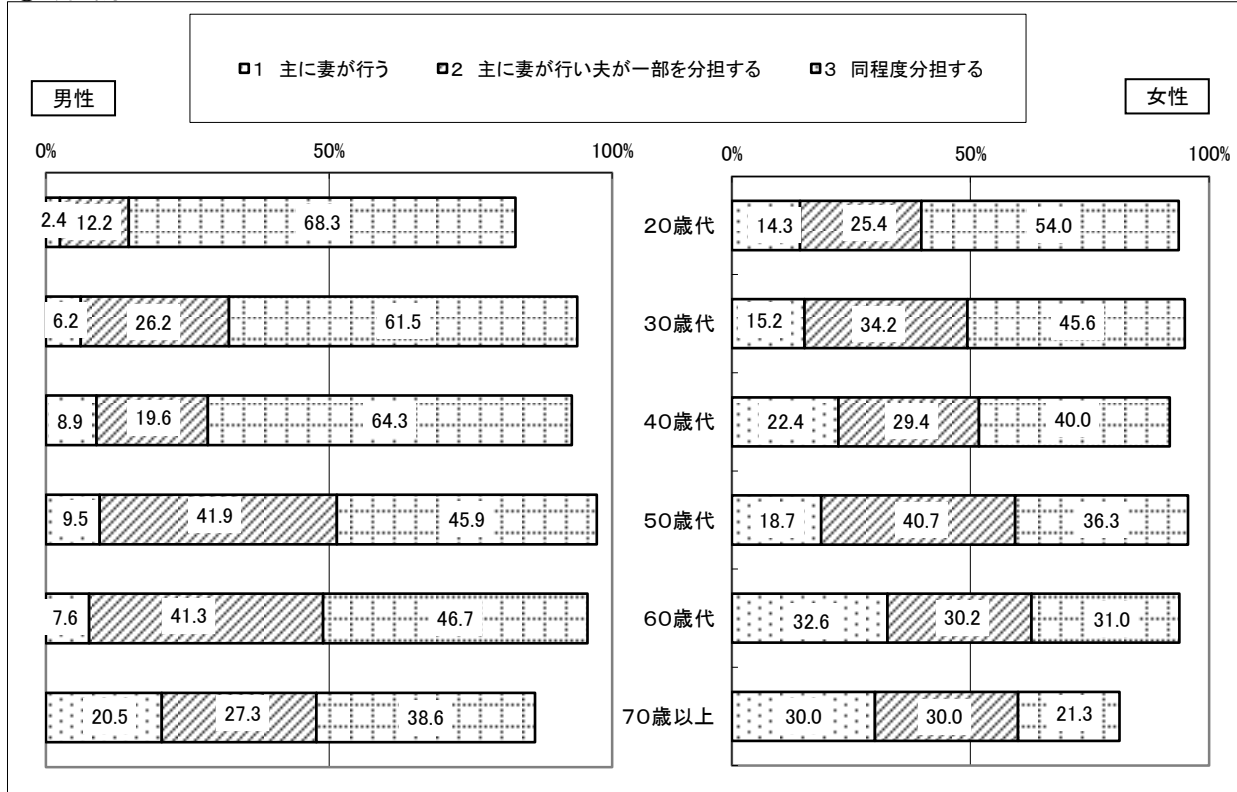
【男性】 20歳代=41 30歳代=65 40歳代=56 50歳代=74 60歳代=92 70歳以上=88

【女性】 20歳代=63 30歳代=79 40歳代=85 50歳代=91 60歳代=129 70歳以上=80

既婚者全体を年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものが最も多い年代は、男性では「50歳代」(51.4%)、女性では「60歳代」(62.8%)である。

「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したもので、男女差が最もあった年代は「20歳代」であり、男性(14.6%)と女性(39.7%)では、女性の方が25.1ポイント多い。

④今回調査



※グラフから一部のデータを省略した。今回調査データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

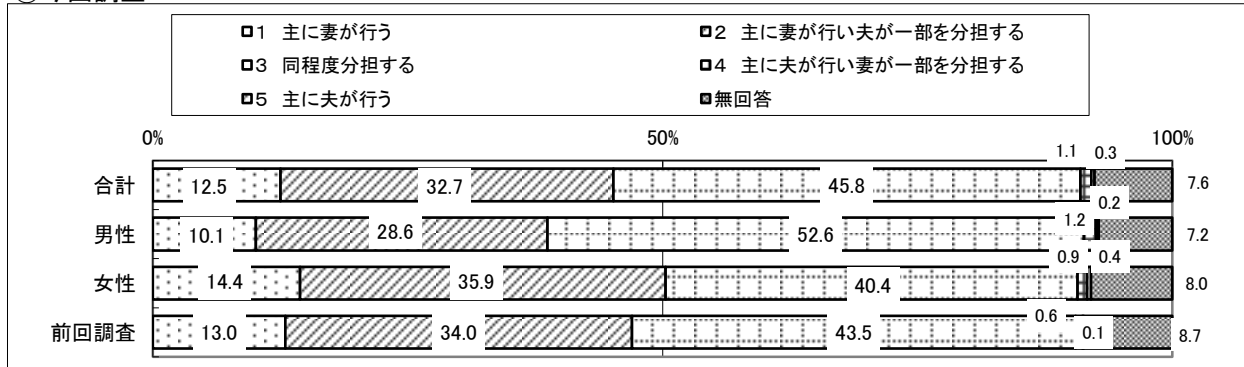
問9(3)理想の役割分担 日常の買い物

日常の買い物の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは45.2%であり、前回調査(47.0%)より1.8ポイント減少している。

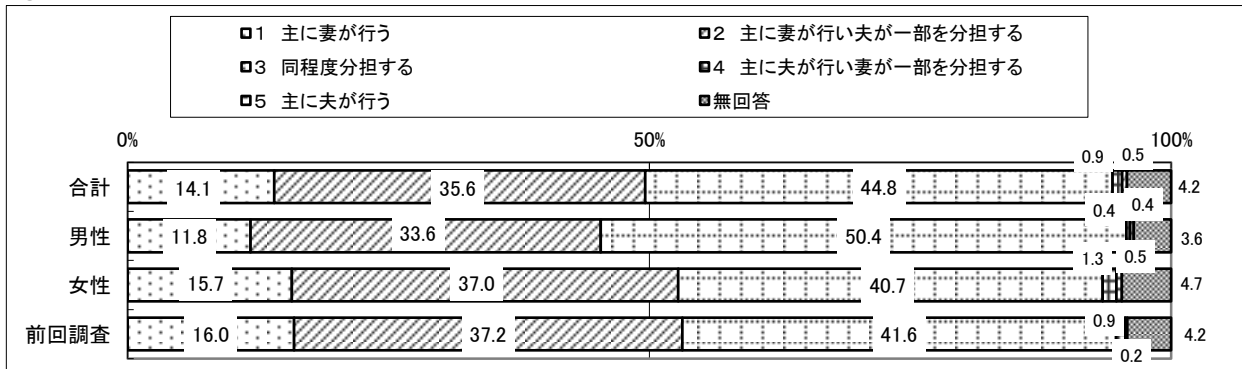
男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(38.7%)は前回調査(41.4%)より2.7ポイント減少し、女性(50.3%)は前回調査(51.5%)より1.2ポイント減少している。

既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは49.7%であり、回答者全体(45.2%)と比較すると、4.5ポイント多い。

①今回調査



②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=661 男性=280 女性=381)



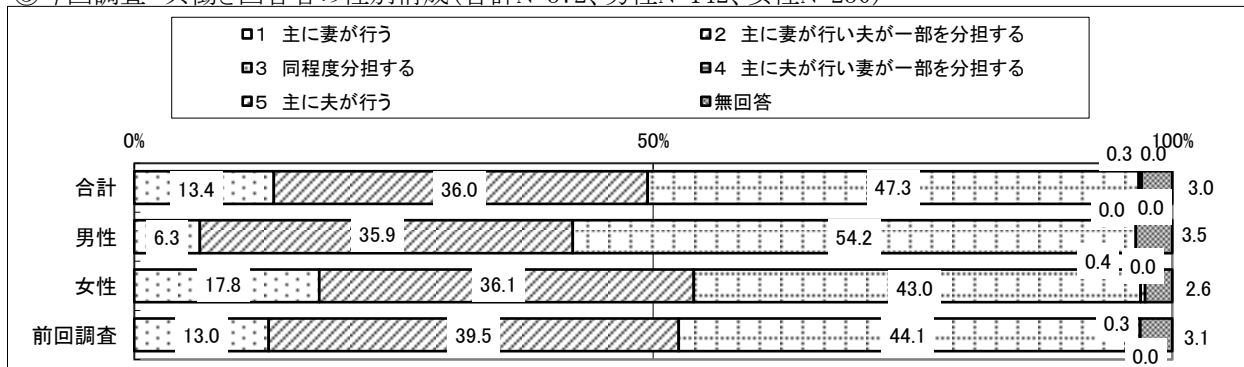
※グラフから一部のデータを省略した。データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

共働きの回答者に着目すると、日常の買い物を主に誰が分担するかの理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは49.4%であり、回答者全体(45.2%)より4.2ポイント多い。

前回調査(52.5%)と比較すると、3.1ポイント減少している。

男女別にみると、男性(42.2%)では前回調査(44.5%)より2.3ポイント減少、女性(53.9%)では前回調査(59.6%)より5.7ポイントと大幅に減少している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計N=372、男性N=142、女性N=230)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

N=943

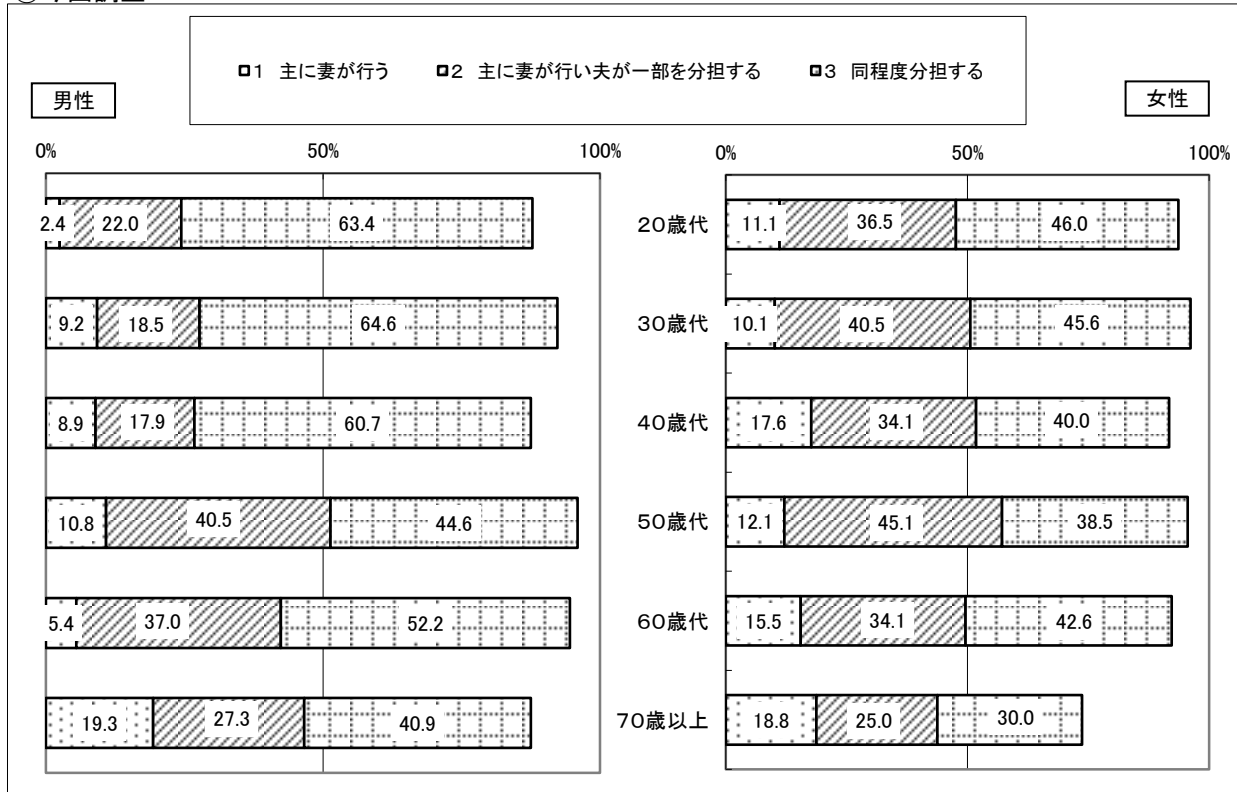
【男性】 20歳代=41 30歳代=65 40歳代=56 50歳代=74 60歳代=92 70歳以上=88

【女性】 20歳代=63 30歳代=79 40歳代=85 50歳代=91 60歳代=129 70歳以上=80

既婚者全体を年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものが最も多い年代は男性では「50歳代」(51.3%)、女性では「50歳代」(57.2%)である。

「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したもので、男女差が最もあった年代は「40歳代」であり、男性(26.8%)と女性(51.7%)では、女性の方が24.9ポイント多い。

④今回調査



※グラフから一部のデータを省略した。今回調査データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

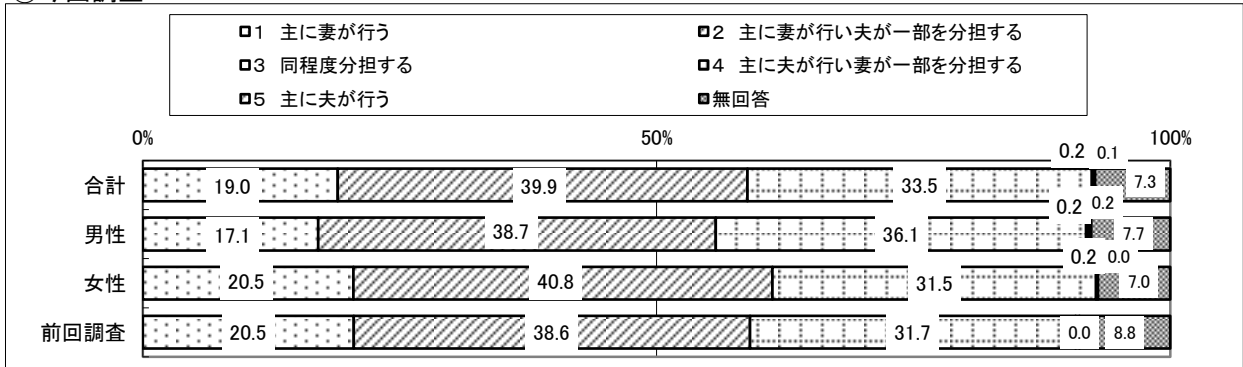
問9(4)理想の役割分担 食事のしたく

食事のしたくの役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは58.9%であり、前回調査(59.1%)より0.2ポイント減少している。

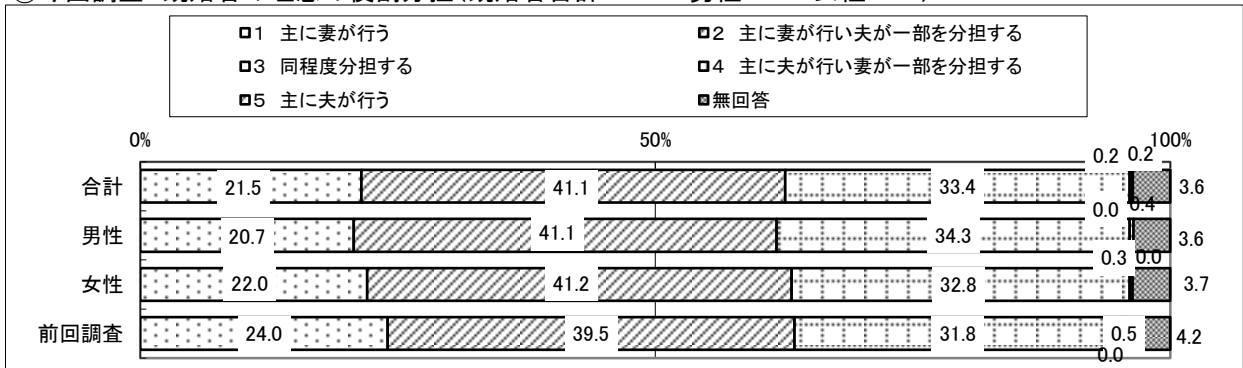
男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(55.8%)は前回調査(60.0%)より4.2ポイント減少し、女性(61.3%)は前回調査(58.4%)より2.9ポイント増加している。

既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは62.6%であり、回答者全体(58.9%)と比較すると、3.7ポイント多い。

①今回調査



②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=661 男性=280 女性=381)

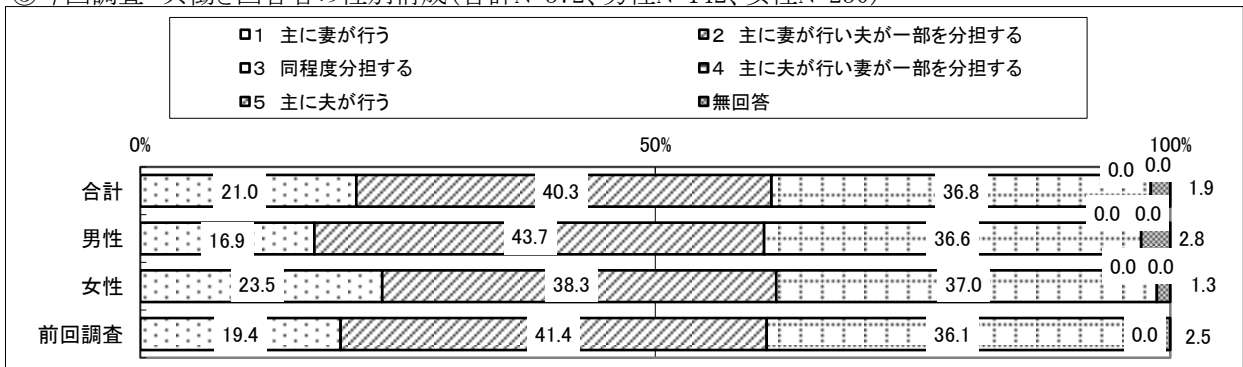


共働きの回答者に着目すると、食事のしたくを主に誰が分担するかの理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは61.3%であり、回答者全体(58.9%)より2.4ポイント多い。

前回調査(60.8%)と比較すると、0.5ポイント増加している。

男女別にみると、男性(60.6%)では前回調査(60.1%)より0.5ポイント増加、女性(61.8%)では前回調査(61.4%)より0.4ポイント増加している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計N=372、男性N=142、女性N=230)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

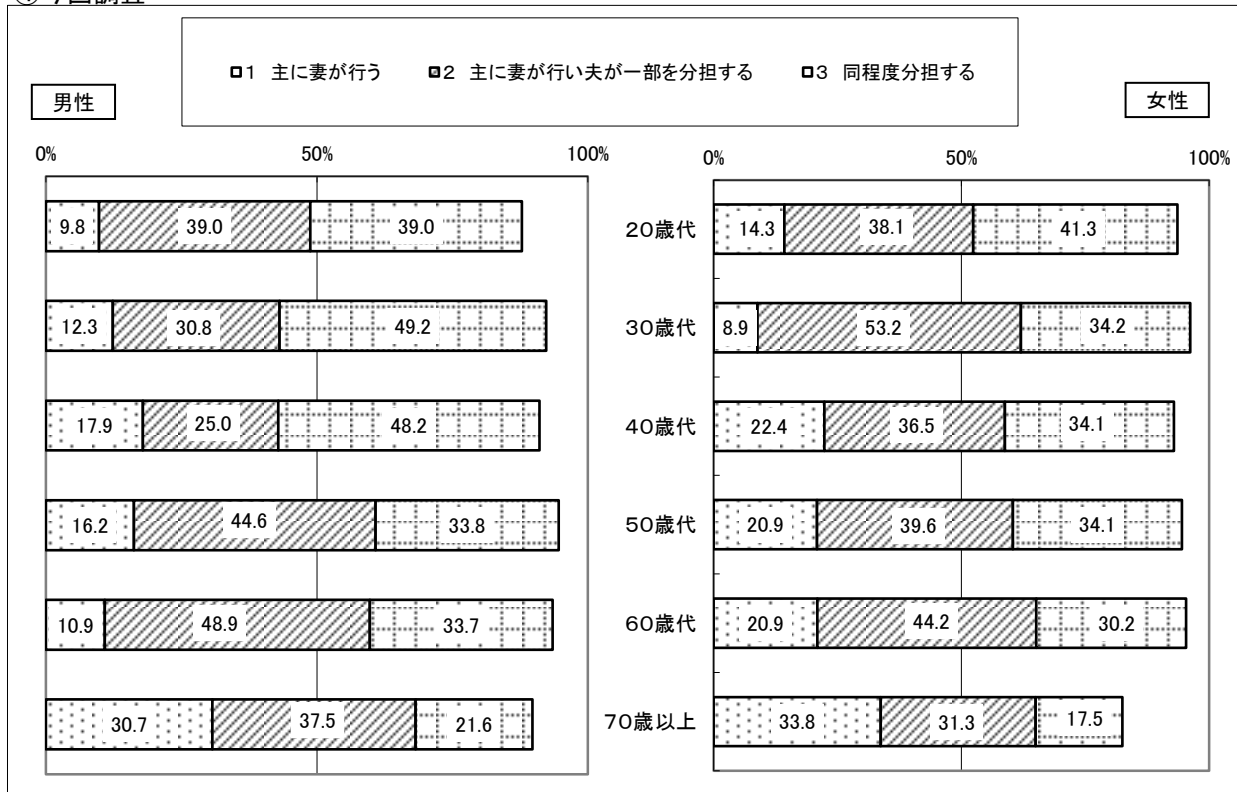
N=943

【男性】 20歳代=41 30歳代=65 40歳代=56 50歳代=74 60歳代=92 70歳以上=88

【女性】 20歳代=63 30歳代=79 40歳代=85 50歳代=91 60歳代=129 70歳以上=80

既婚者全体を年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものが最も多い年代は男性では「50歳代」(60.8%)、女性では「60歳代」(65.1%)である。
 「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したもので、男女差が最もあった年代は「30歳代」であり、男性(43.1%)と女性(62.1%)では、女性の方が19ポイント多い。

④今回調査

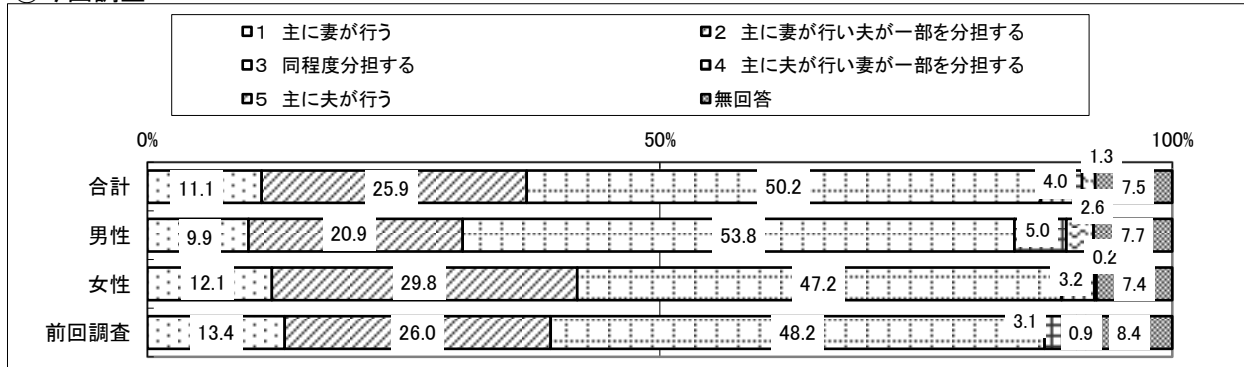


※グラフから一部のデータを省略した。今回調査データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

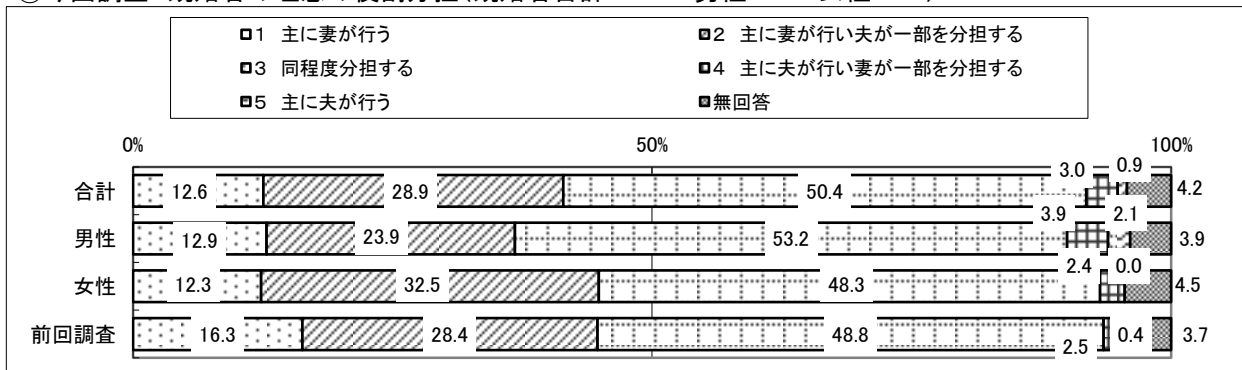
問9(5)理想の役割分担 食事の後片付け

食事の後片付けの役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは37.0%であり、前回調査(39.4%)より2.4ポイント減少している。
 男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(30.8%)は前回調査(36.5%)より5.7ポイントと大幅に減少し、女性(41.9%)は前回調査(41.6%)0.3ポイント増加している。
 既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは41.5%であり、回答者全体(37.0%)と比較すると、4.5ポイント多い。
 「同程度分担する」は回答者全体(50.2%)と既婚者(50.4%)ではともに過半数を超えている。

①今回調査

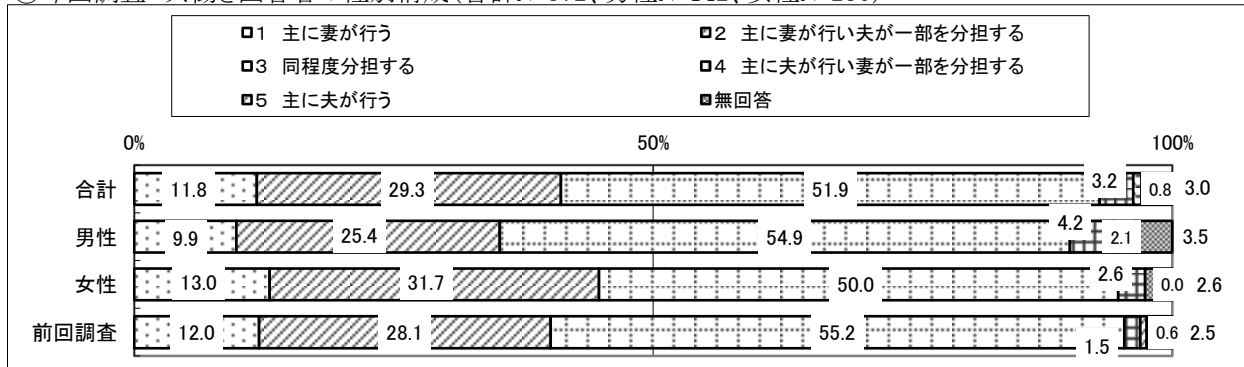


②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=661 男性=280 女性=381)



共働きの回答者に着目すると、食事の後片付けを主に誰が分担するかの理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは41.1%であり、回答者全体(37.0%)より4.1ポイント多い。
 前回調査(40.1%)と比較すると、1ポイント増加している。
 男女別にみると、男性(35.3%)では前回調査(38.6%)より3.3ポイント減少、女性(44.7%)では前回調査(41.6%)より3.1ポイント増加している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計N=372、男性N=142、女性N=230)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

N=943

【男性】 20歳代=41 30歳代=65 40歳代=56 50歳代=74 60歳代=92 70歳以上=88

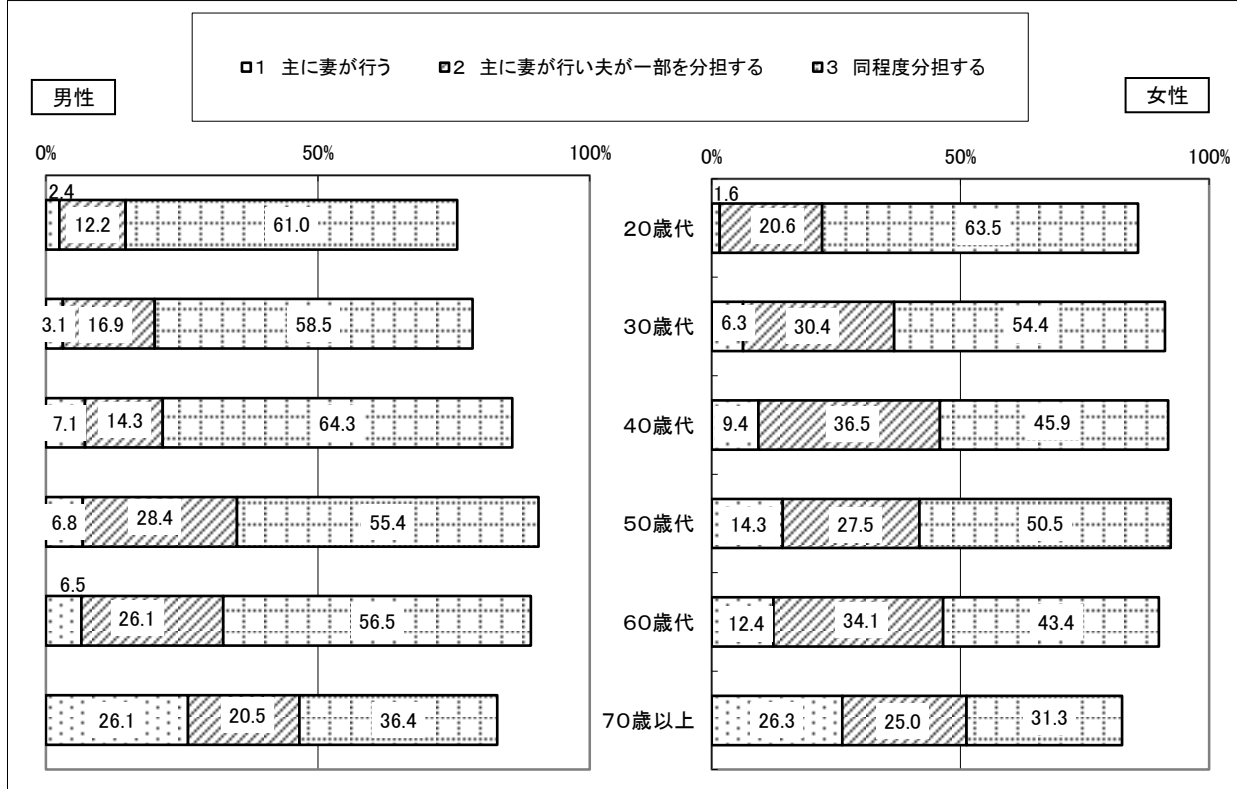
【女性】 20歳代=63 30歳代=79 40歳代=85 50歳代=91 60歳代=129 70歳以上=80

既婚者全体を年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものが最も多い年代は男性では「70歳以上」(46.6%)、女性では「70歳以上」(51.3%)である。

「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したもので、男女差が最もあった年代は「40歳代」であり、男性(21.4%)と女性(45.9%)では、女性の方が24.5ポイント多い。

「同程度分担する」と回答した男性は、「70歳以上」を除きすべての年代で5割を超えている。

④今回調査

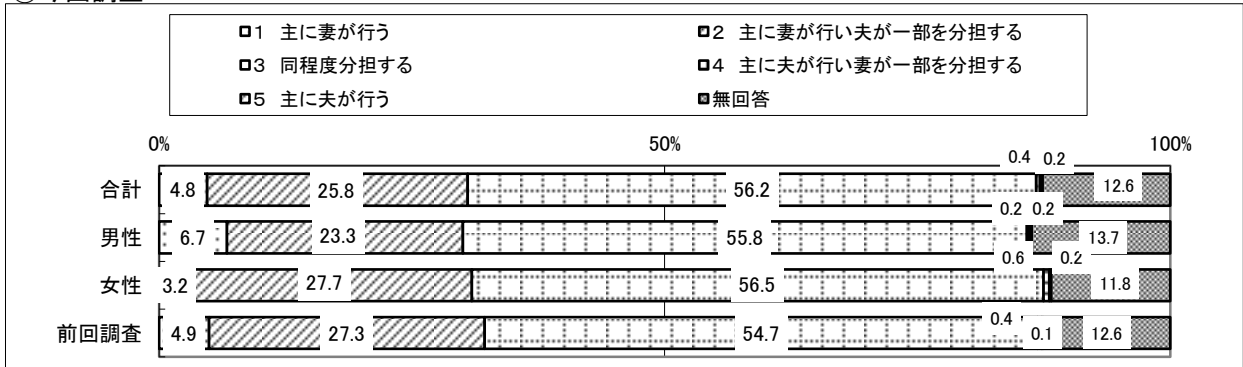


※グラフから一部のデータを省略した。今回調査データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

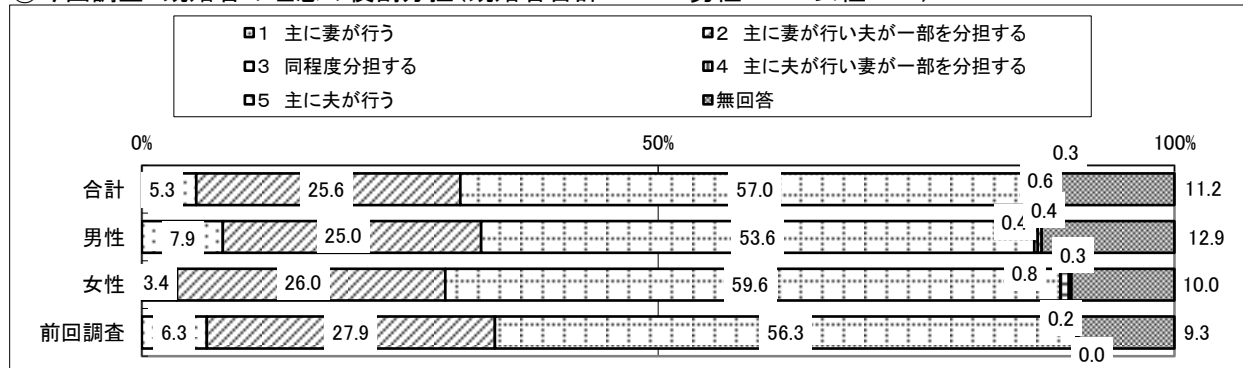
問9(6)理想の役割分担 育児

育児の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは30.6%であり、前回調査(32.2%)より1.6ポイント減少している。
 男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(30.0%)は前回調査(32.2%)より2.2ポイント減少し、女性(30.9%)は前回調査(32.3%)より1.4ポイント減少している。
 既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは30.9%であり、回答者全体(30.6%)と比較すると、0.3ポイント多い。
 「同程度分担する」は回答者全体(56.2%)においても、既婚者(57.0%)においても過半数を上回っている。

①今回調査



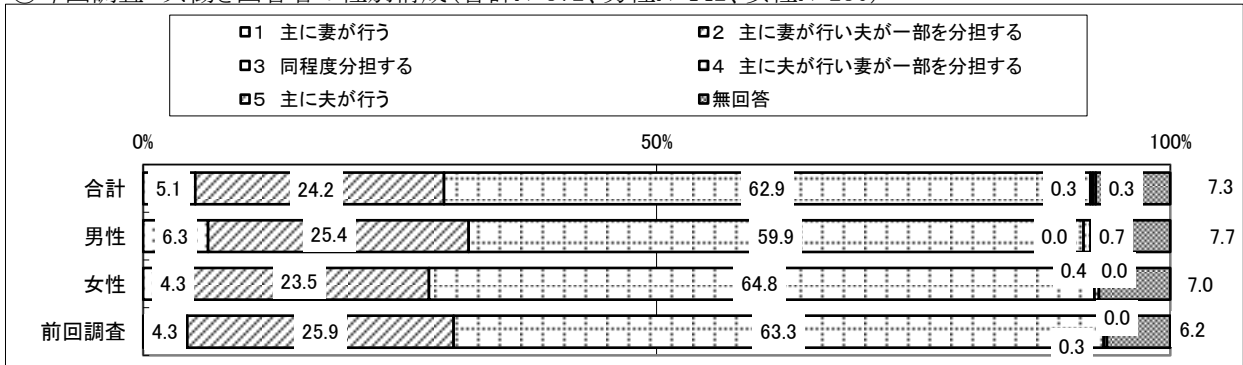
②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=661 男性=280 女性=381)



※グラフから一部のデータを省略した。データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

共働きの回答者に着目すると、育児を主に誰が分担するか理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは29.3%であり、回答者全体(30.6%)より1.3ポイント少ない。
 前回調査(30.2%)と比較すると、0.9ポイント減少している。
 男女別にみると、男性(31.7%)では前回調査(33.6%)より1.9ポイント減少、女性(27.8%)では前回調査(34.7%)より6.9ポイントと大幅に減少している。
 「同程度分担する」と回答したものは62.9%であり、回答者全体(56.2%)より6.7ポイント多く、既婚回答者(57.0%)より5.9ポイント多い。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計N=372、男性N=142、女性N=230)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

N=943

【男性】 20歳代=41 30歳代=65 40歳代=56 50歳代=74 60歳代=92 70歳以上=88

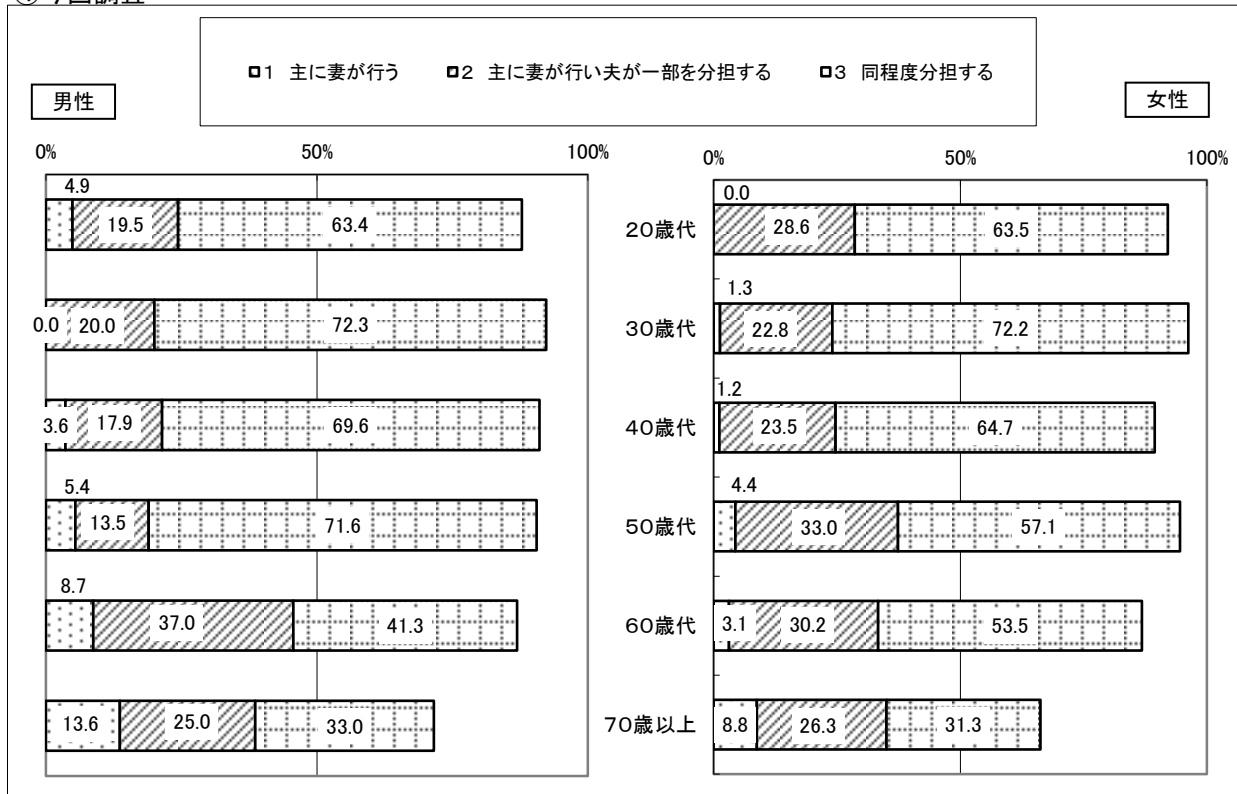
【女性】 20歳代=63 30歳代=79 40歳代=85 50歳代=91 60歳代=129 70歳以上=80

既婚者全体を年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものが最も多い年代は男性では「60歳代」(45.7%)、女性では「50歳代」(37.4%)である。

「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したもので、男女差が最もあった年代は「50歳代」であり、男性(18.9%)と女性(37.4%)では、女性の方が18.5ポイント多い。

男女共に「同程度分担する」と回答したものが7割を超えたのは「30歳代」であり、男性72.3%、女性72.2%であった。

④今回調査



※グラフから一部のデータを省略した。今回調査データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

問9(7)理想の役割分担 高齢者の介護

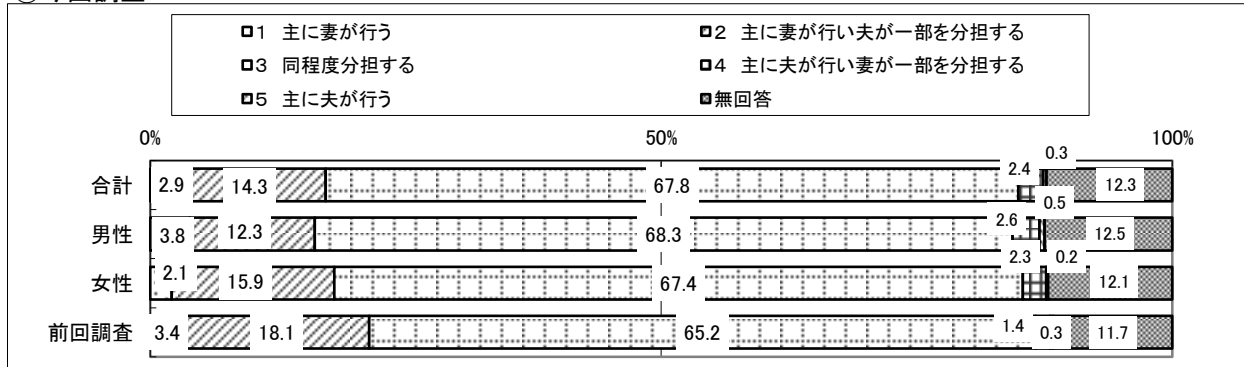
高齢者の介護の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは17.2%であり、前回調査(21.5%)より4.3ポイント減少している。

男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(16.1%)は前回調査(20.0%)より3.9ポイント減少し、女性(18.0%)は前回調査(22.6%)より4.6ポイント減少している。

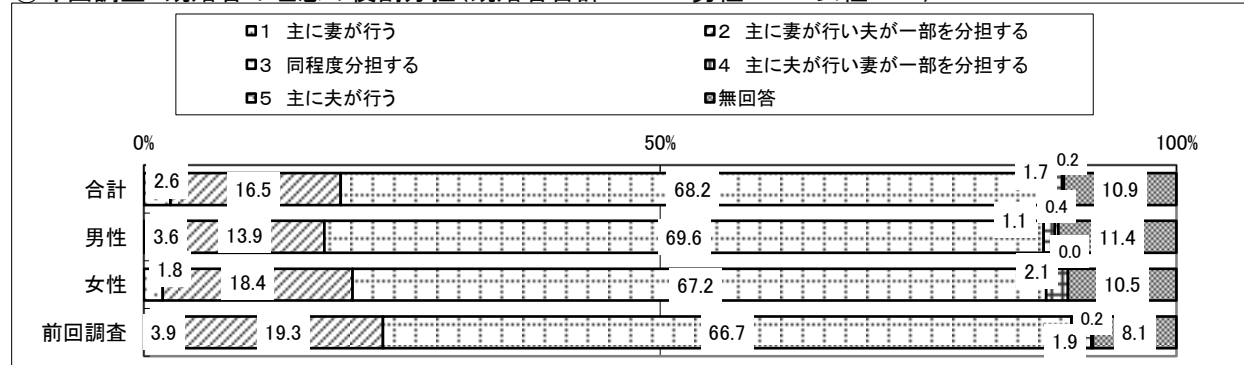
既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは19.1%であり、回答者全体(17.2%)と比較すると、1.9ポイント多い。

「同程度分担する」と回答したものは67.8%であり、前回調査(65.2%)より2.6ポイント増加している。

①今回調査



②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=661 男性=280 女性=381)

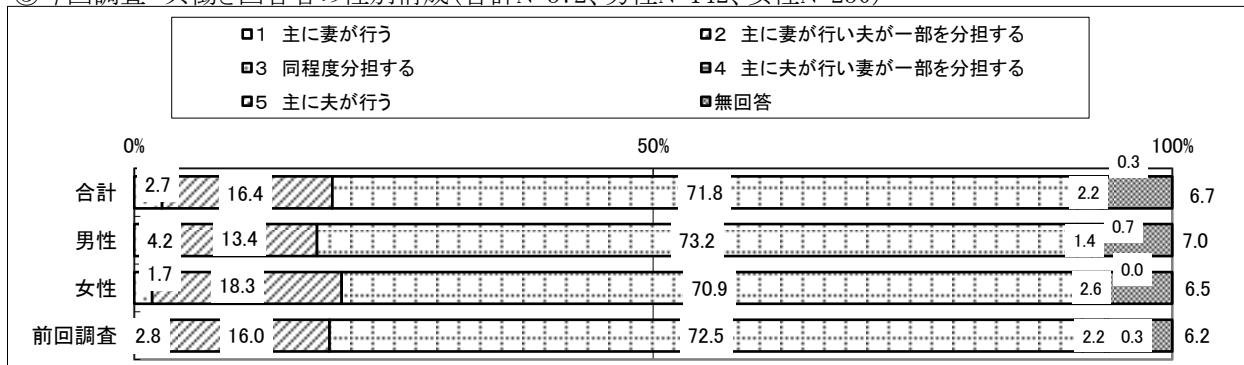


共働きの回答者に着目すると、高齢者の介護を主に誰が分担するかの理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは19.1%であり、回答者全体(17.2%)より1.9ポイント多い。

前回調査(18.8%)と比較すると、0.3ポイント増加している。

「同程度分担する」と回答した男性(73.2%)は前回調査(69.3%)より3.9ポイント増加し、男女共に7割を超えている。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計N=372、男性N=142、女性N=230)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

N=943

【男性】 20歳代=41 30歳代=65 40歳代=56 50歳代=74 60歳代=92 70歳以上=88

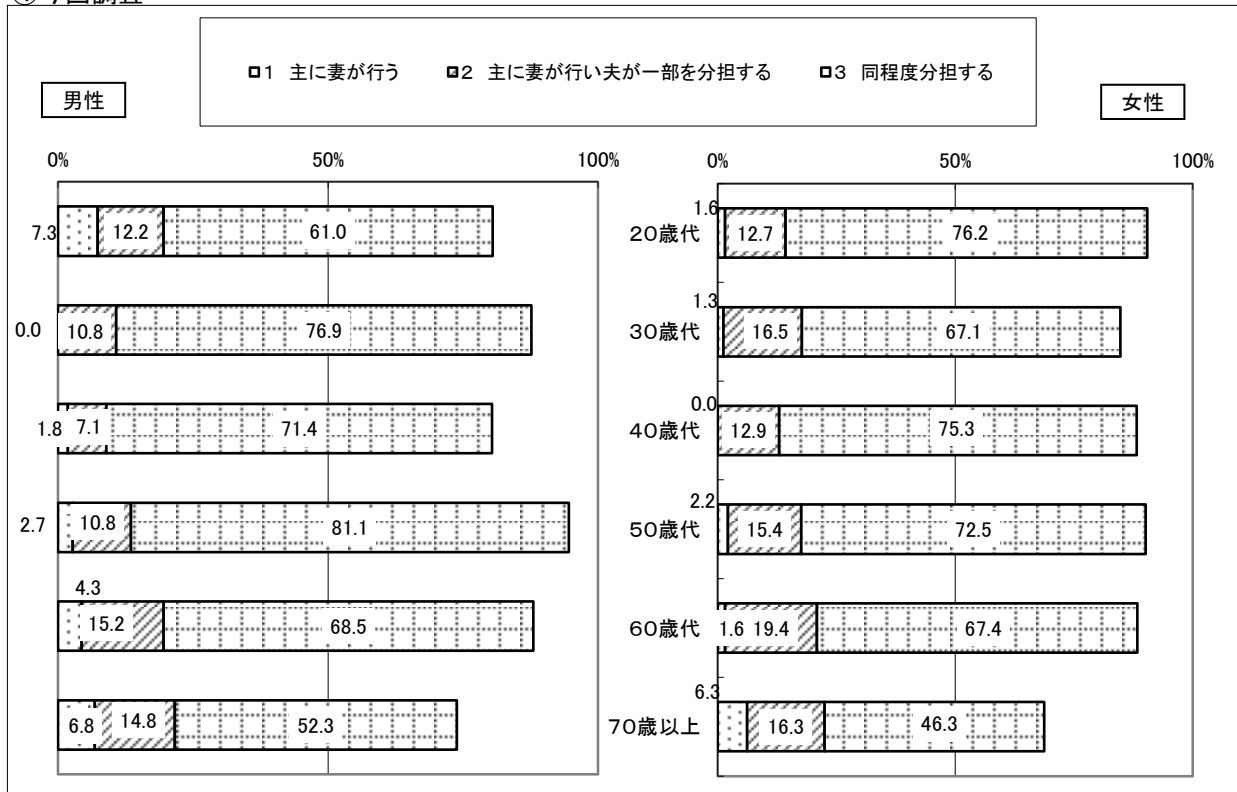
【女性】 20歳代=63 30歳代=79 40歳代=85 50歳代=91 60歳代=129 70歳以上=80

既婚者全体を年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものが最も多い年代は男性では「70歳以上」(21.6%)、女性では「70歳以上」(22.6%)である。

「主に妻が行う」と回答しなかったのは「30歳代男性」と「40歳代女性」であった。

「同程度分担する」と回答したものが最も多かった年代は、男性「50歳代」(81.1%)、女性「20歳代」(76.2%)である。

④今回調査



問9(8)理想の役割分担 地域の行事に参加

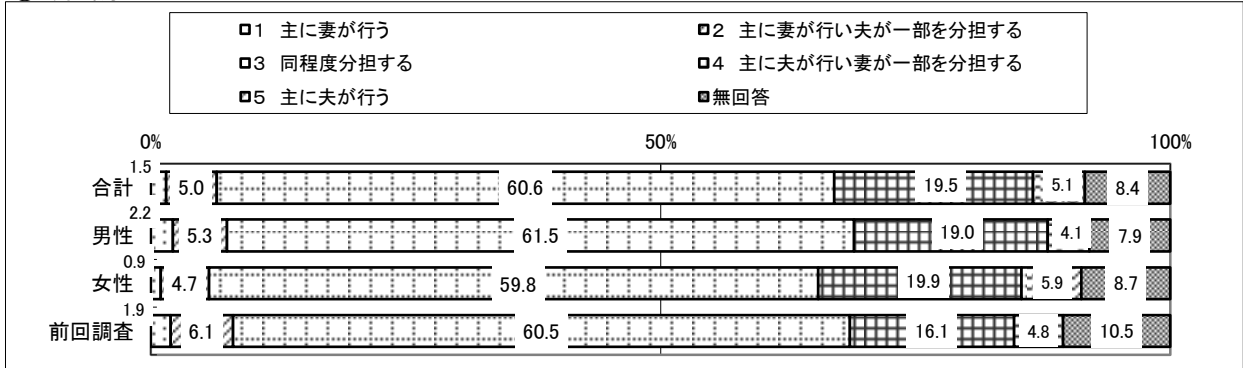
地域の行事に参加の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは6.5%であり、前回調査(8.0%)より1.5ポイント減少している。

男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(7.5%)は前回調査(8.9%)より1.4ポイント減少し、女性(5.6%)は前回調査(7.3%)より1.7ポイント減少している。

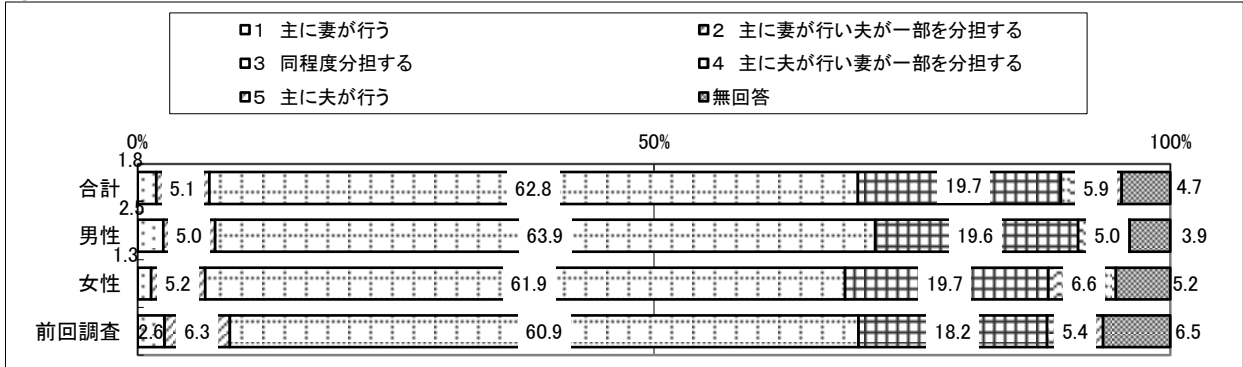
「同程度分担する」は60.6%であり、前回調査(60.5%)と差はほぼないが、「主に夫が行う(妻が一部負担含む)」は24.6%であり、前回調査(20.9%)より3.7ポイント増加している。

既婚者の理想で、「同程度分担する」と回答したものは62.8%であり、回答者全体(60.6%)より2.2ポイント多い。

①今回調査



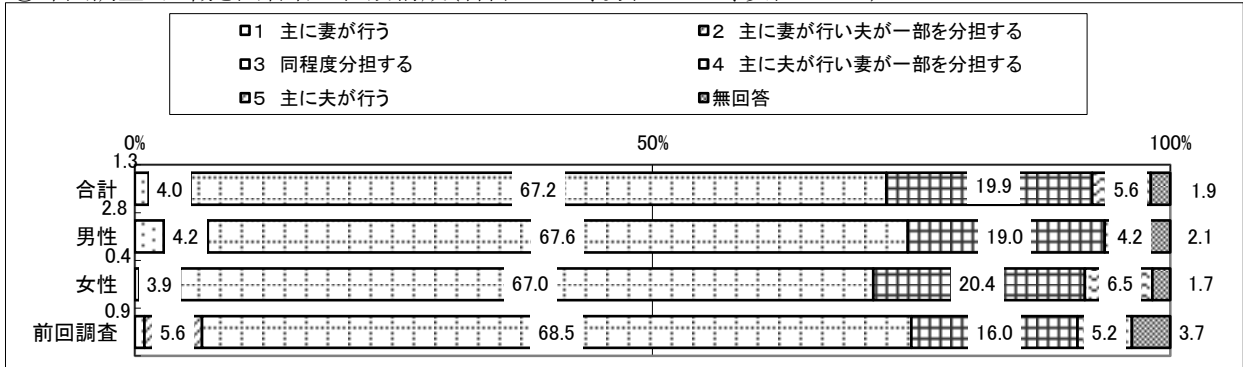
②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=661 男性=280 女性=381)



共働きの回答者に着目すると、地域の行事に参加を主に誰が分担するか理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは5.3%であり、回答者全体(6.5%)より1.2ポイント少ない。

「同程度分担する」と回答したものは67.2%であり、回答者全体(60.6%)より6.6ポイント多く、既婚回答者(62.8%)より4.4ポイント多い。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計N=372、男性N=142、女性N=230)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

N=943

【男性】 20歳代=41 30歳代=65 40歳代=56 50歳代=74 60歳代=92 70歳以上=88

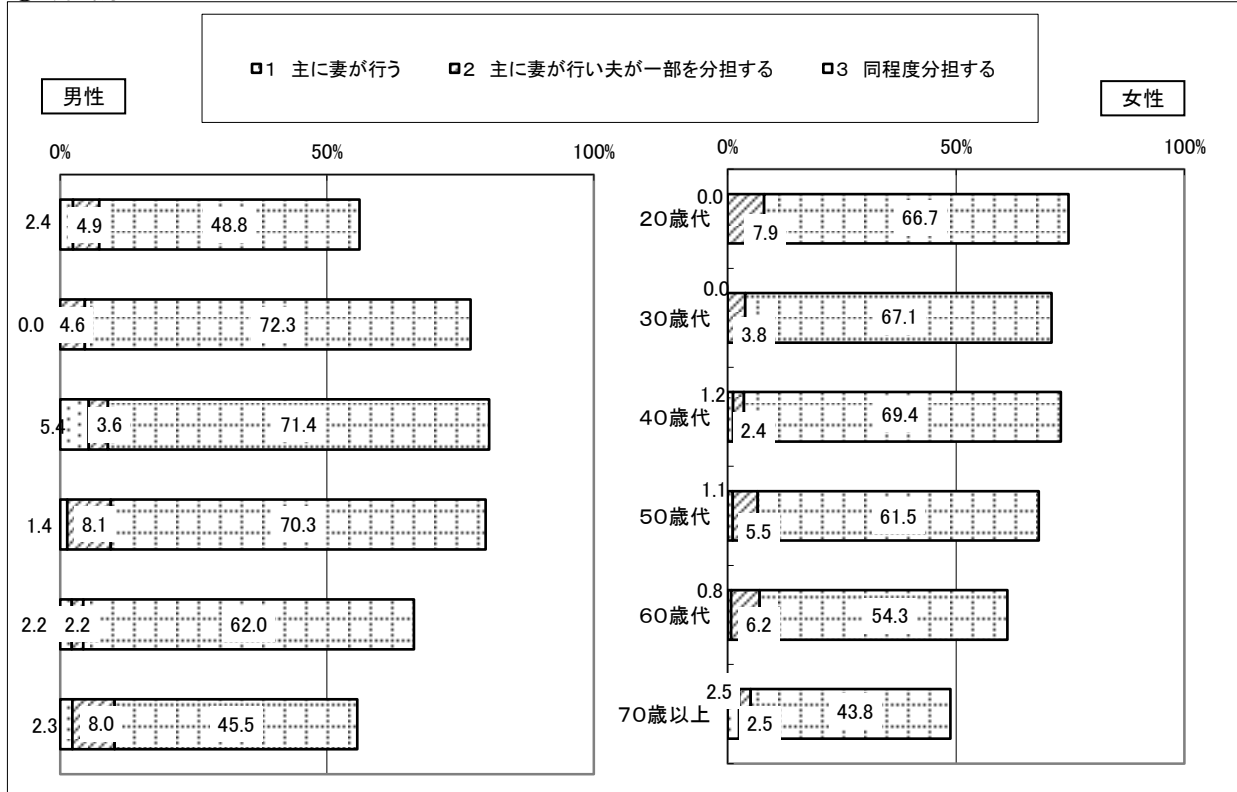
【女性】 20歳代=63 30歳代=79 40歳代=85 50歳代=91 60歳代=129 70歳以上=80

既婚者全体を年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものが最も多い年代は男性では「70歳以上」(10.3%)、女性では「20歳代」(7.9%)である。

「同程度分担する」と回答したものが最も多い年代は、男性は「30歳代」(72.3%)、女性は「40歳代」(69.4%)である。

「主に妻が行う」と回答しなかったものは「30歳代男性」と「30歳代女性」、「20歳代女性」である。

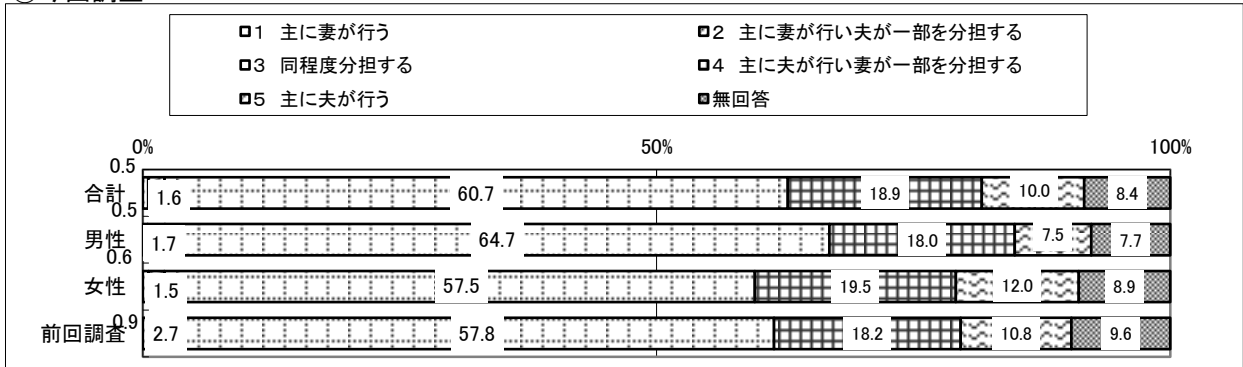
④今回調査



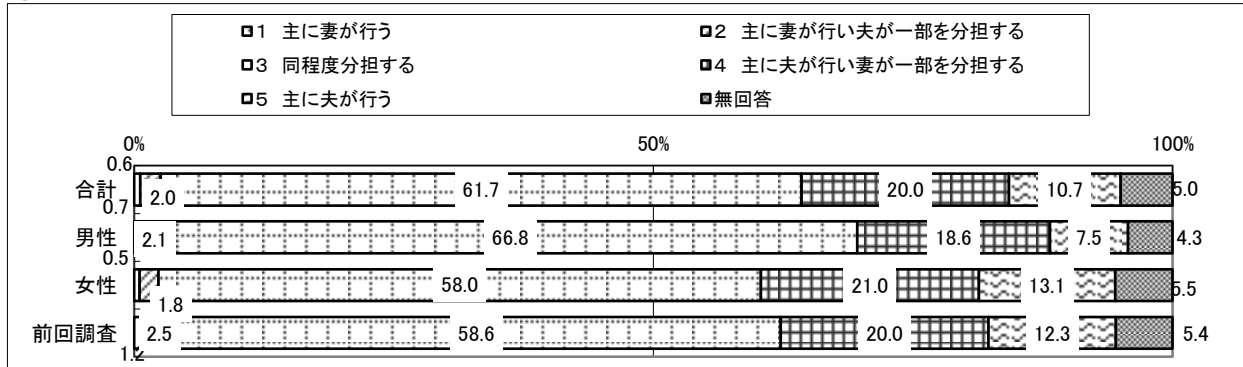
問9(9)理想の役割分担 高額商品や土地・家屋の購入の決定

高額商品や土地・家屋の購入の決定の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは2.1%であり、前回調査(3.6%)より1.5ポイント減少している。
 「同程度分担する」と回答したものは60.7%であり、前回調査(57.8%)より2.9ポイント増加している。
 男女別にみると、「同程度分担する」と回答した男性(64.7%)は前回調査(61.4%)より3.3ポイント増加し、女性(57.5%)は前回調査(54.8%)2.7ポイント増加している。
 既婚者の理想は「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」は2.6%であり、前回調査(3.7%)より1.1ポイント減少している。
 「同程度分担する」と回答した既婚者は61.7%であり、回答者全体(60.7%)より1ポイント多い。

①今回調査

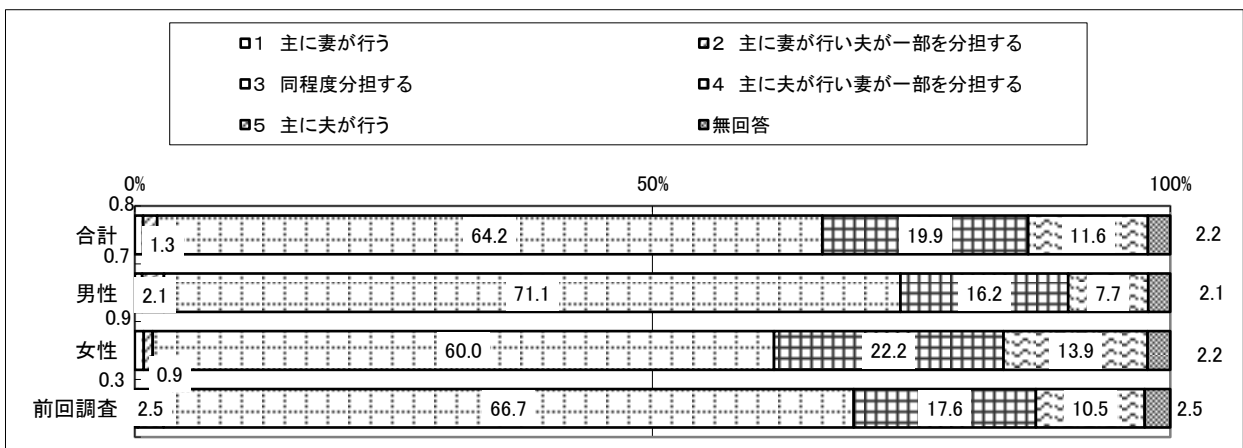


②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=661 男性=280 女性=381)



共働きの回答者に着目すると、高額商品や土地・家屋の購入を主に誰が分担するかの理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは2.1%であり、前回調査(2.8%)より0.7ポイント減少している。「同程度分担する」と回答したものは64.2%であり、回答者全体(60.7%)より3.5ポイント多く、既婚者(61.7%)より2.5ポイント多い。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計N=372、男性N=142、女性N=230)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

N=943

【男性】 20歳代=41 30歳代=65 40歳代=56 50歳代=74 60歳代=92 70歳以上=88

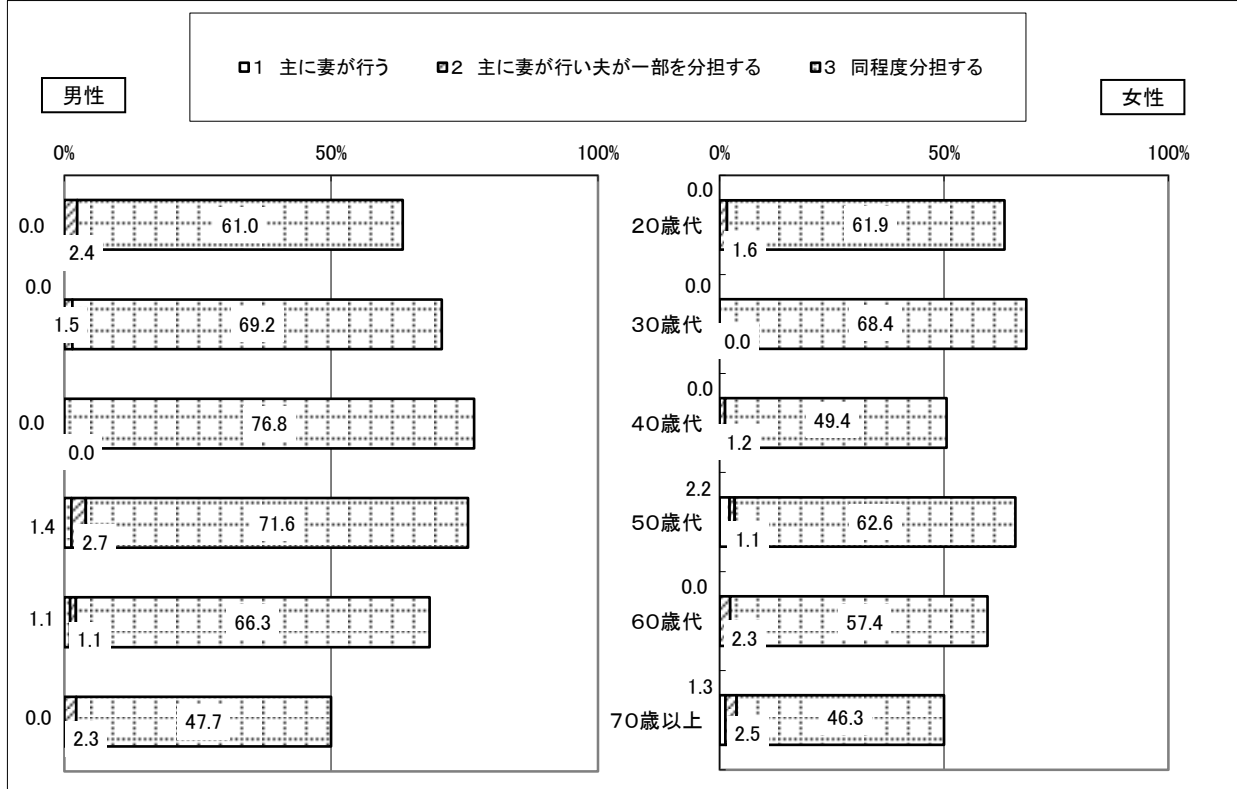
【女性】 20歳代=63 30歳代=79 40歳代=85 50歳代=91 60歳代=129 70歳以上=80

既婚者全体を年代別・男女別にみると、男女共に「20歳代」「30歳代」「40歳代」において、「妻が主に行う」と回答したものはなかった。

また、「40歳代男性」と「30歳代女性」は「主に妻が行う」も「主に妻が行い夫が一部負担する」も回答したものはなかった。

男性では「70歳代以上」以外の全ての年代で、「同程度分担する」と回答したものは6割を超えている。

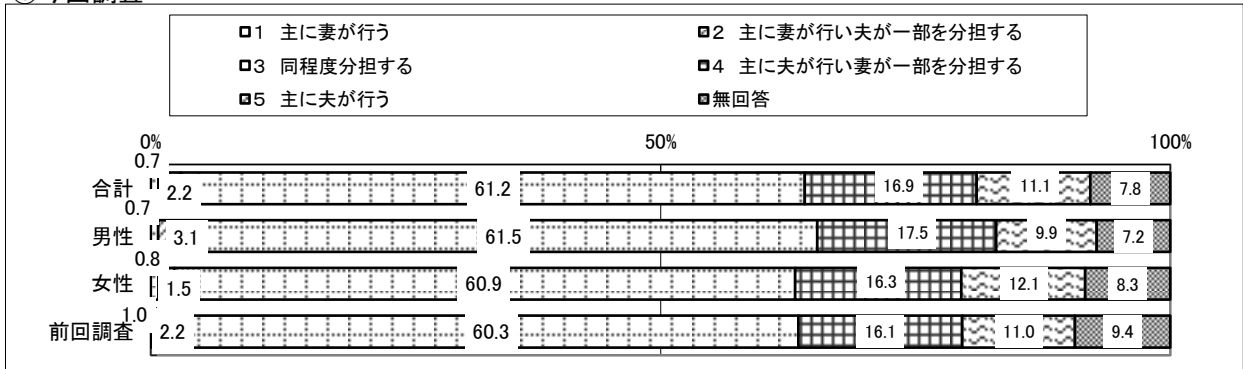
④今回調査



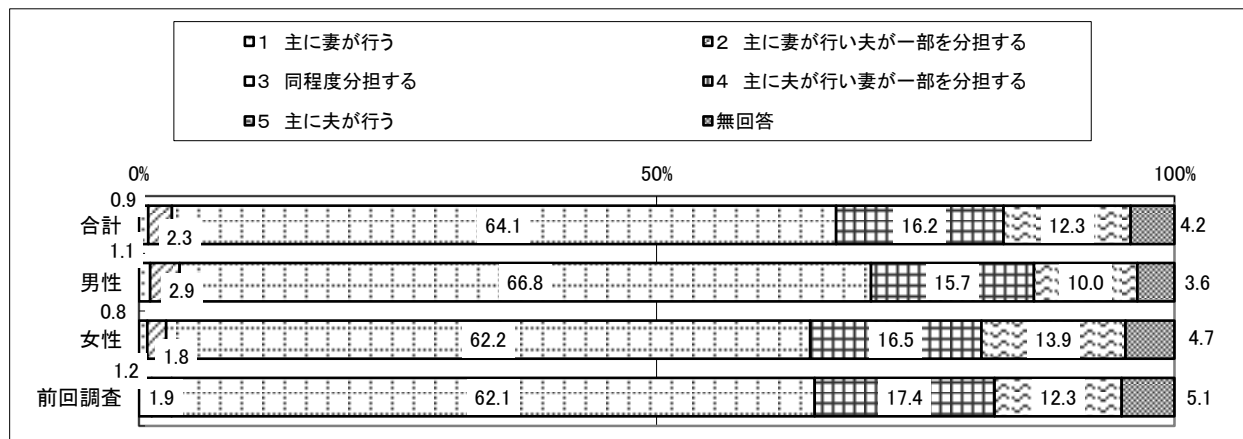
問9(10)理想の役割分担 家庭問題の最終決定

家庭問題の最終決定の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは2.9%であり、前回調査(3.2%)より0.3ポイント減少している。
 「同程度分担している」と回答したものは61.2%であり、前回調査(60.3%)0.9ポイント増加している。
 既婚者の理想をみると、「同程度分担する」と回答したものは64.1%であり、前回調査(62.1%)より2ポイント増加している。

①今回調査

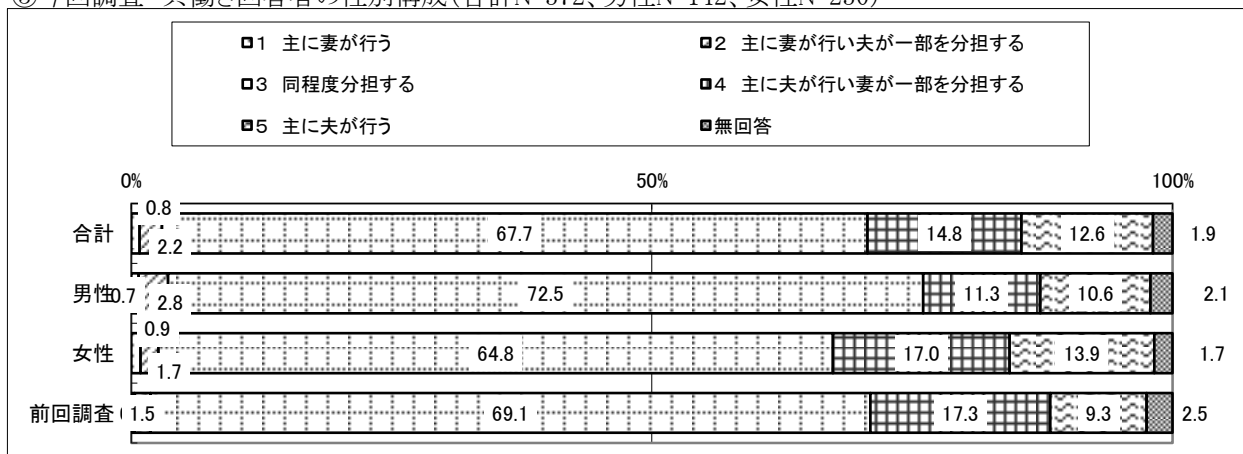


②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=661 男性=280 女性=381)



共働きの回答者に着目すると、家庭問題の最終決定を主に誰が分担するかの理想は、「同程度分担する」と回答したものは67.7%であり、回答者全体(61.2%)より6.5ポイント多く、既婚者(64.1%)より3.6ポイント多い。
 「同程度分担する」と回答した男性は72.5%、女性は64.8%であり、7.7ポイントと大きく差があらわれている。
 女性で「主に夫が行う(妻が一部負担含む)」と回答したものは30.9%であり、男性(21.9%)より9ポイント多い。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計N=372、男性N=142、女性N=230)



※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

N=943

【男性】 20歳代=41 30歳代=65 40歳代=56 50歳代=74 60歳代=92 70歳以上=88

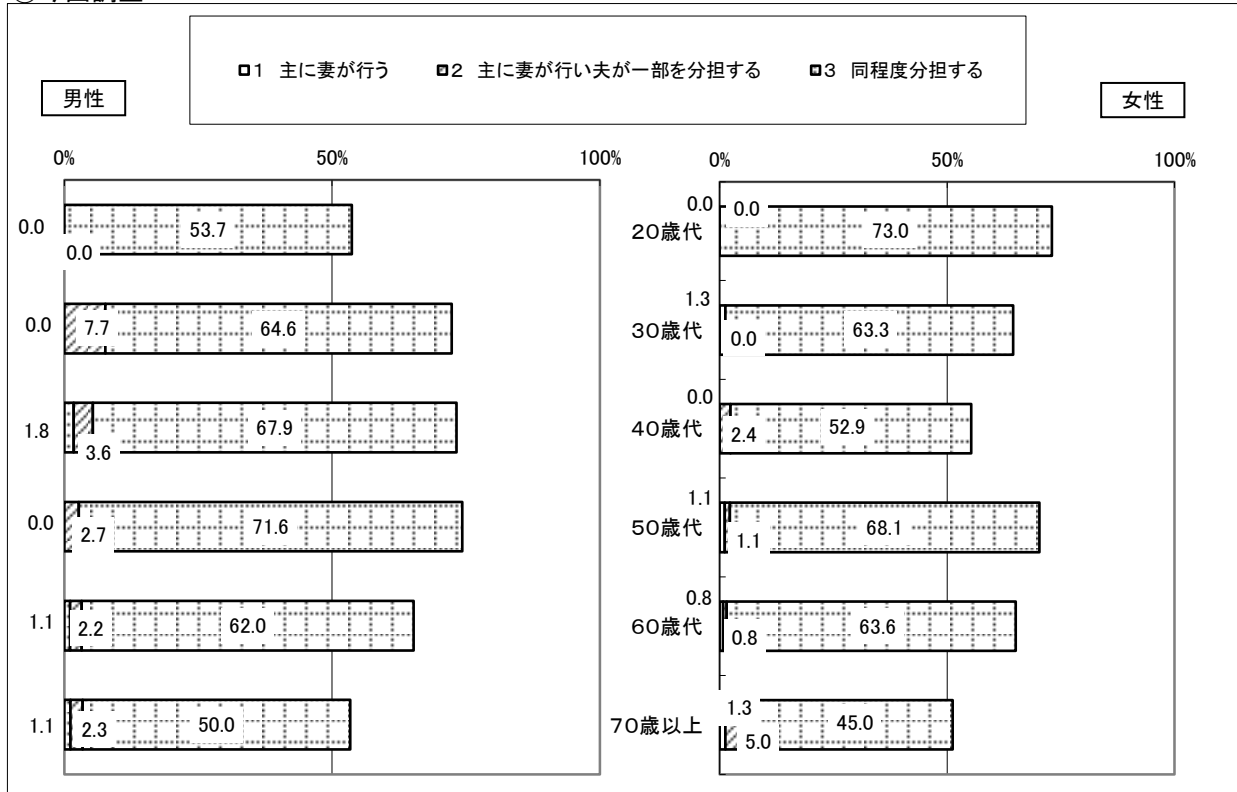
【女性】 20歳代=63 30歳代=79 40歳代=85 50歳代=91 60歳代=129 70歳以上=80

既婚者全体を年代別・男女別にみると「70歳以上女性」以外全ての年代性別で「同程度分担する」と回答したものは5割を超えている。

最も多いのは、男性では「50歳代」(71.6%)、女性では「20歳代」(73.0%)である。

「20歳代」は男女共に「主に妻が行う」または「主に妻が行い夫が一部を分担する」と回答したものはいなかった。

④今回調査



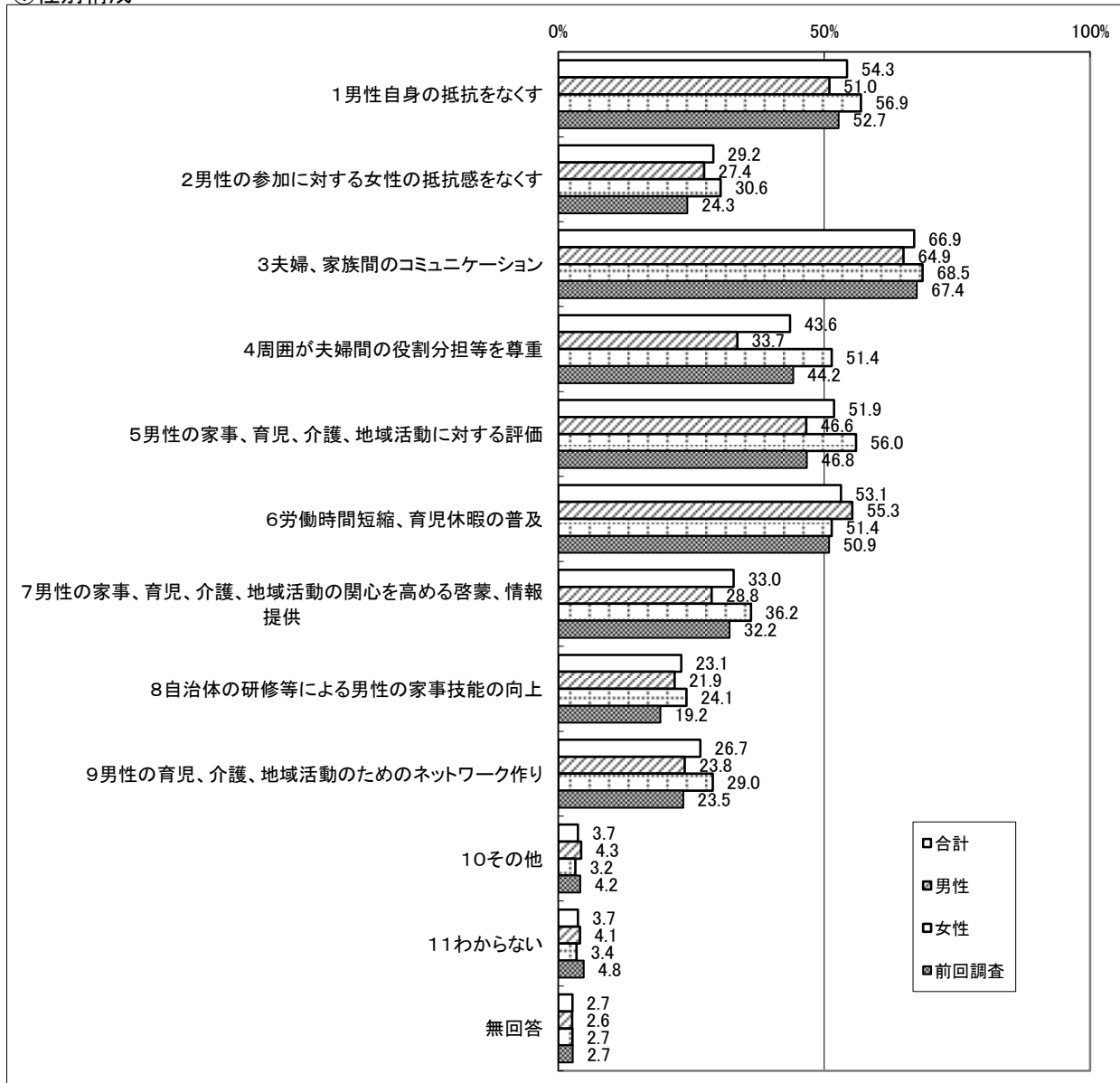
問10 今後、男性が女性とともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。
(N=943 男性416 女性=527)

男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことは、「夫婦、家族間のコミュニケーション」(66.9%)が最も多く、次いで「男性自身の抵抗をなくす」(54.3%)、「労働時間短縮、育児休暇の普及」(53.1%)が続く。

これは前回調査と同様の傾向である。

男女差が最も大きかったのは「周囲が夫婦間の役割分担等を尊重」であり、男性(33.7%)と女性(51.4%)では、女性の方が17.7ポイント多かった。

①性別構成



年代別・男女別にみると、男性「20歳代」以外全ての年代・性別で5割を超えたものは「夫婦、家族間のコミュニケーション」である。

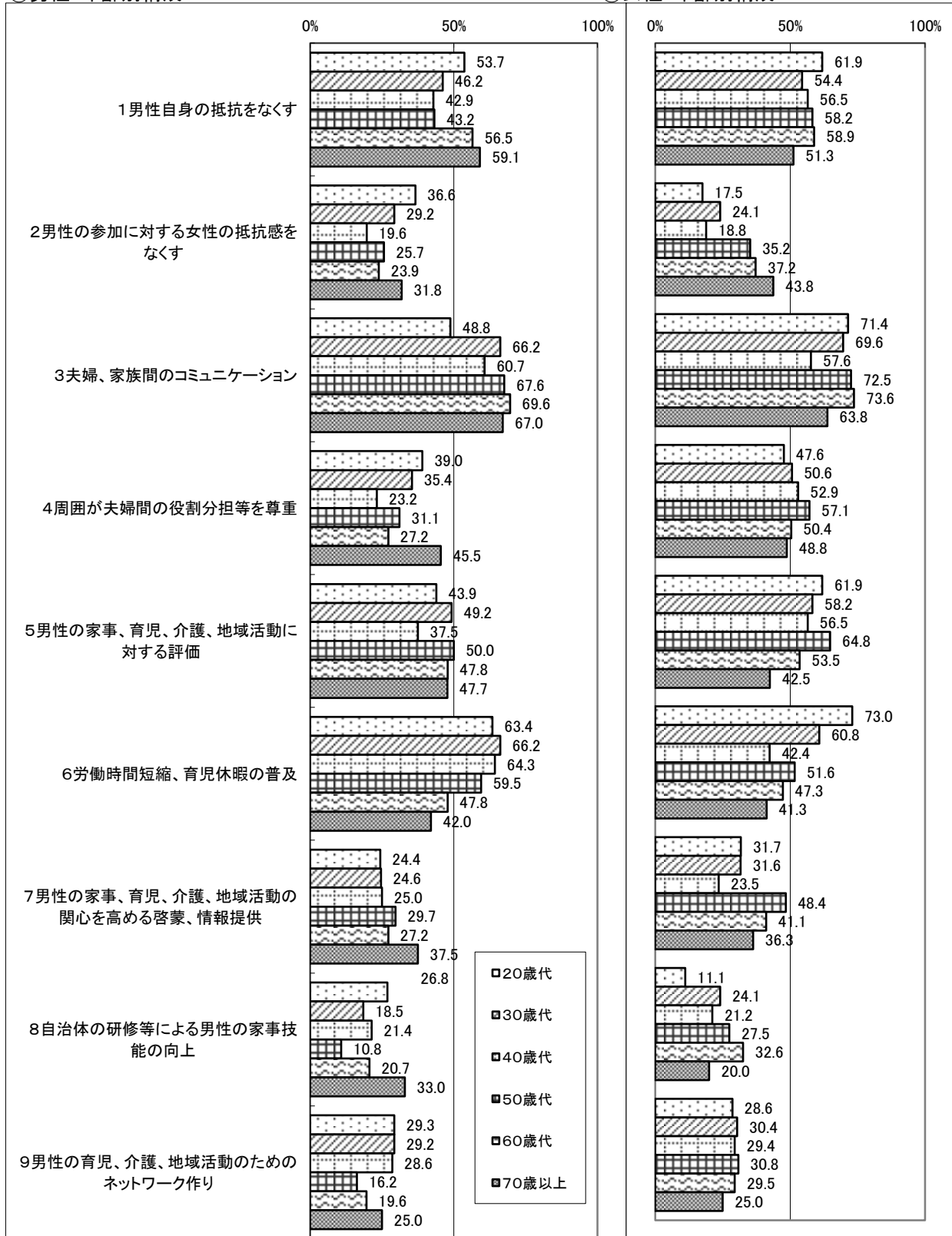
また、女性では「男性自身の抵抗をなくす」も、全ての年代が5割を超えている。

「周囲が夫婦間の役割分担を尊重」では、女性はほぼ全ての年代で5割近く選択しているが、男性は最も多い「70歳以上」でも45.5%と5割に達していない。

この項目については、最も少ない「40歳代男性」(23.2%)と最も多い「50歳代女性」(57.1%)では33.9ポイントと大きな差があらわれている。

②男性・年齢別構成

③女性・年齢別構成



※グラフから一部のデータを省略した。今回調査データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

「その他」の記述

男・女の肉体、精神特性を知り、理解の普及
女性の参画が少ないという前提の質問には答えられない。

私の場合は、義伯母、義父(病院で寝たっきり) 義母は認知症、そして息子は自閉症で大変だったにもかかわらず、主人は全然助けてくれなかったので結局はその方の人間性、思いやりがあるかどうか・・・だと思います。

法律で男性の育児介護時間の原則義務化
男性が家事育児に非積極的であるという固定観念に基づく一方的な世論形成及び男性批判の流布の是正
自営業者を増やす。公務員、雇われ者のぶら下がりを減らす。自営業者はもともと家庭や地域活動に積極的である。

男女共に得意な方がやれば良い。
そもそも無理して行わせるものではないと考えます
小学校、中学校からの教育の中で、知識、技術を身につけていく。
男女の資質に違いがあるので適材適所が良いと思う。
男女というわけへだてをなくすこと、誰にでもやる事が出来る。

私達夫婦は結婚して30年以上になりますが育児して保育園に入園するまでは女は家庭男は仕事を通してきましたが体調こわしてから家庭になりましたが、長男夫婦、嫁は息子に強制的に家庭のことをさせていましたが、結局離婚しましたが、無理強いはいけないと思います。二人で話し合う事が大切だと思います。

正規雇用され、同等の待遇を受けること。
分担を変える必要を感じない。
テレビドラマ等、海外家庭状況等メディアで男性家事参加に関する報道を多くする。

地域の活動にこれは女性仕事、男性の仕事というふうになっている部分があるので、母の会とかではなく父母の会というように名称を変えたりして活動しやすくする

結婚してもお互いが常に自立していることが本来の男女共同であり、人権を尊重することが重要であることを幼い頃から教育の中で養うこと。

妻が要介護3で自宅介護しています。地域活動には全く参加できません。

家庭における教育【性別の特性は残しつつ、家事を当然のごとく普通にする(できる)ことができる意識の育成と技術の習得】

会社が理解する事

男性が育児・家事に参加するためには、職場での講座等があったほうが参加しやすいと感じる。県や市町村などの研修は平日に行われることも多く参加できなかった。

男性女性にかかわらず男女なんでも出来るような時代が来るといいですね、なってほしです。
親が(家庭や地域)自分の生き方は自分で考えて決めていくという根本的なことを教える。
「男は仕事、女は家庭」という考えを持っている男性管理職の意識を変える事。
そのかたの仕事の内容により変わってくると思います。

一人身のおじを5年近く介護をしました私の場合は主人、と弟達(夫婦)とで見ましたが大変でしたそれでも1人ではとても出来なかったでしょう。とにかくお互いに良く話し合う事それが一番ですね。

・男性の会社における、仕事の重要度、負担を軽減する。・労働環境の整備
??むずかしい

万人が優しい人になれるような教育がTVドラマやアニメ・バラエティ番組の観点から、&マンガ等から必要だと思います(万人が優しい人になれる作品づくりによる教育・人間育成等)。幼少時に、優しい人間になれるような社会づくりが必要だと思います。→昔、TVでやっていた、世界名作劇場とか、世界の子供たち?とか

抵抗をなくす以前に、男もやらなければいけない、やるのが当前と自覚するべき、年寄りたちが昔はこうだった・・・と過去と比較せず、今は今と時代が変わってきている事を知り、受け入れるべき。

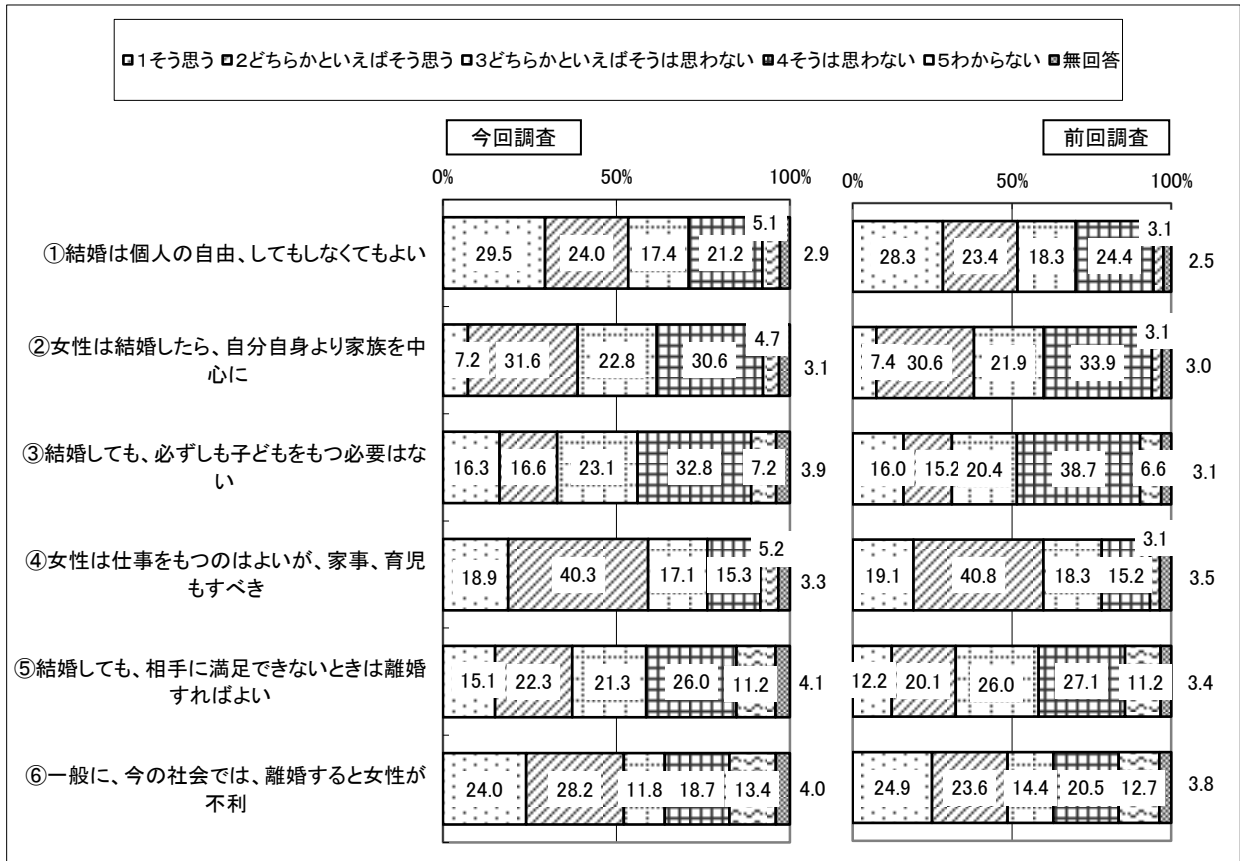
出産、育児のよる仕事上の不利益の解消。

※「その他」の記述については、誤字を含め可能な限り原本の表記に従った。
※ただし、地域や個人が特定される恐れのある単語は「□」と表記したほか、「わからない」「特になし」や、男女共同参画に関係ない記述は省略した。

問11 次のうち、あなたのご意見に近いものはどれでしょうか。次の①～⑥の項目ごとに1～5の中から1つずつ選んで番号に○をしてください。
(N=943 男性=416 女性=527)

①～④については前回調査と比べ大きな変化はみられないが、⑤と⑥については差があらわれた。
「結婚しても、相手に満足できないときは離婚すればよい」については、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答したものは37.4%であり、前回調査(32.3%)より5.1ポイント増加した。
「一般に、今の社会では、離婚すると女性が不利」については、「そう思う」またはどちらかといえばそう思う」と回答したものは52.2%であり、前回調査48.5%より3.7ポイント増加し、5割を超えた。

①合計(総数)の経年推移(今回調査N=943、前回調査N=770)



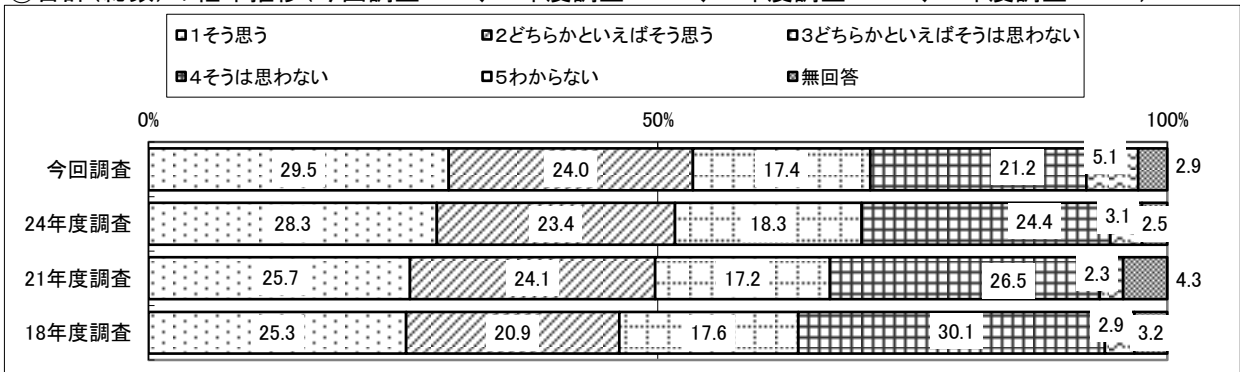
※以下、各テーマごとに行った分析では、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答したものを『そう思う』、「どちらかといえばそう思わない」または「そうは思わない」と回答したものを『そうは思わない』と表記する。

問11(1)結婚について

設問「①結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい」

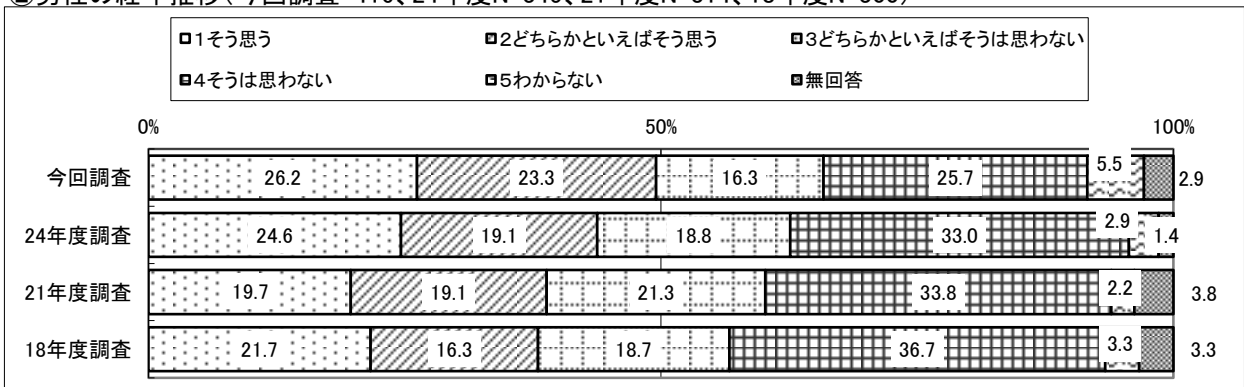
人は結婚してもしなくてもどちらでもよいにたいして、『そう思う』と回答したものは53.5%であり、前回調査に続き、5割を超えている。
 『そう思う』は18年度調査46.2%、21年度調査49.8%、24年度調査51.7%とわずかずつ増加しており、増加傾向にあるといえる。
 『そうは思わない』と回答したものは38.6%であり、前回調査(42.7%)より4.1ポイント減少した。

①合計(総数)の経年推移(今回調査=943、24年度調査N=770、21年度調査N=740、18年度調査N=621)

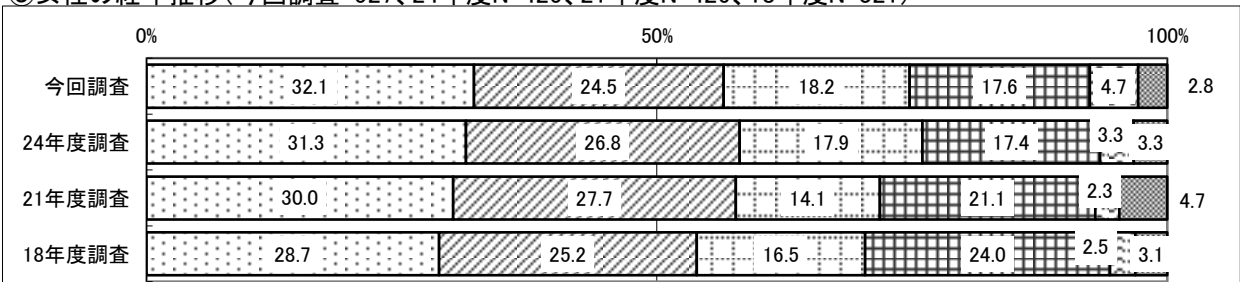


男女別にみると、男性で『そう思う』と回答したものは49.5%であり、前回調査(43.7%)より5.8ポイントと大きく増加している。
 女性で『そう思う』と回答したものは56.6%であり、前回調査(58.1%)より1.5ポイント減少しているが、依然として5割を超えている。
 男性よりも女性の方が『そう思う』と回答したものが多い傾向は前回調査同様である。

②男性の経年推移(今回調査=416、24年度N=345、21年度N=314、18年度N=300)

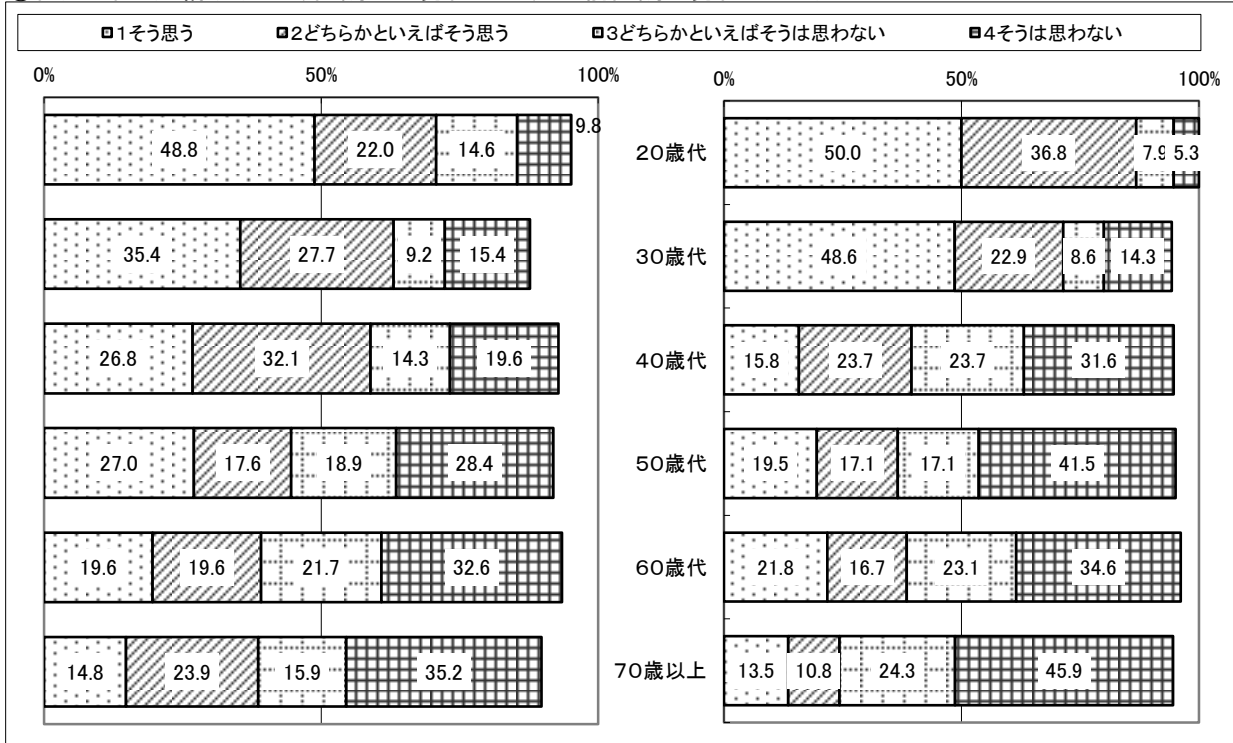


③女性の経年推移(今回調査=527、24年度N=425、21年度N=426、18年度N=321)



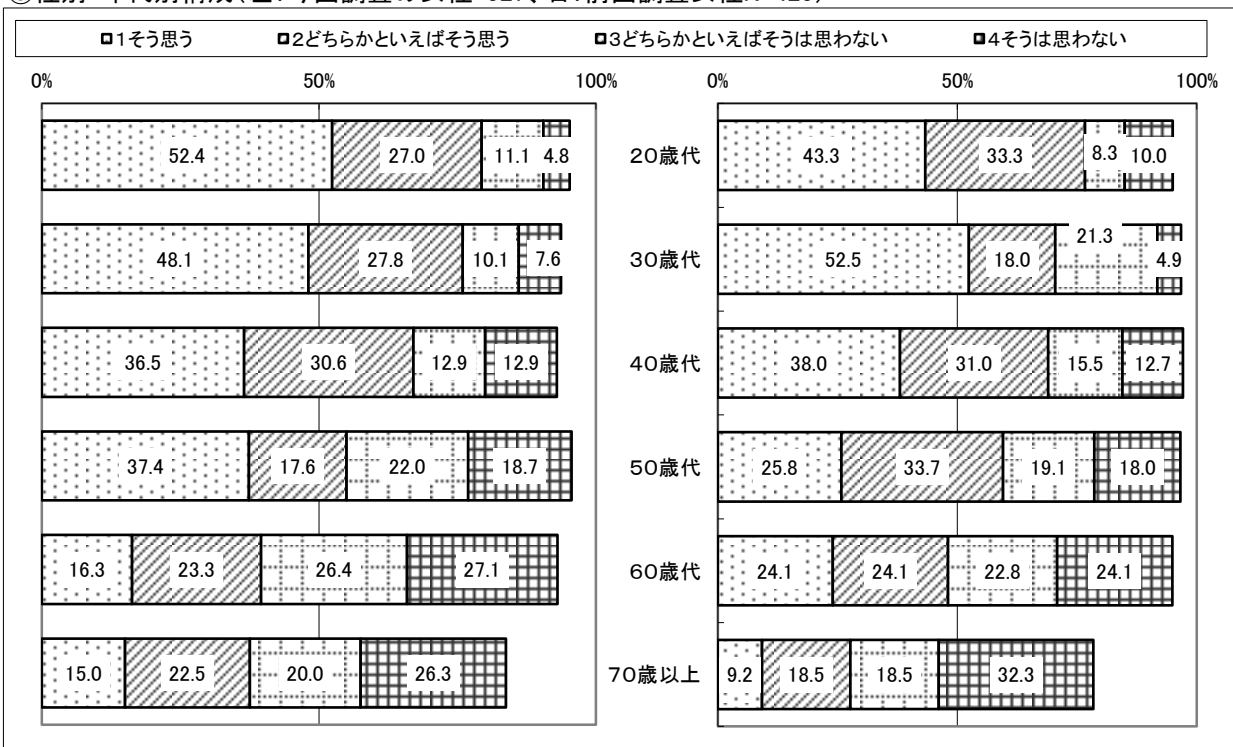
年代別・男女別にみると、『そう思う』と回答したものは、男女共に「20歳代」が最も多く、男性70.8%、女性79.4%である。
 最も少ないのは男女共に「70歳以上」であり、男性38.7%、女性37.5%である。
 『そう思う』と回答したものは男女ともに、年代が上がるにつれて減少する傾向にある。
 これは前回調査とほぼ同様の傾向である。

④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=416、右:前回調査男性N=345)



※グラフから一部のデータを省略した。今回調査データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

⑤性別・年代別構成(左:今回調査の女性=527、右:前回調査女性N=425)



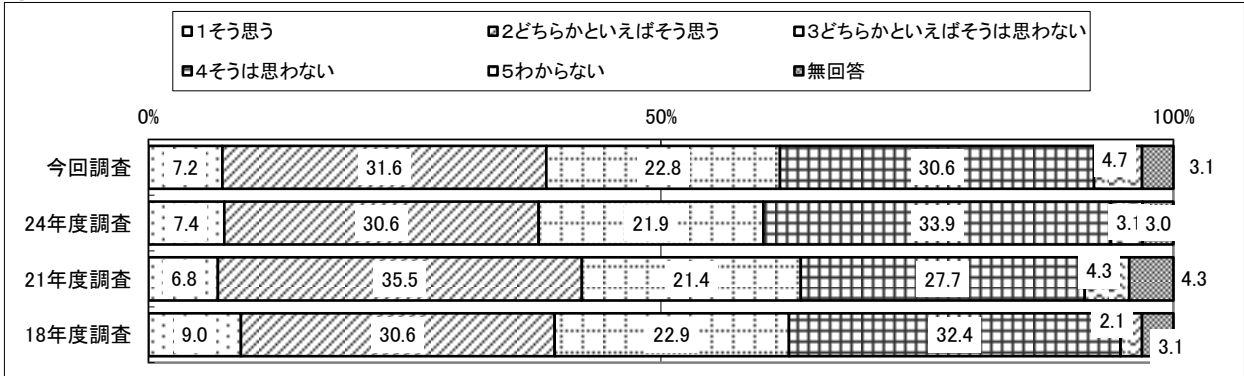
※グラフから一部のデータを省略した。今回調査データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

問11(2)家庭について

設問「②女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど、家族を中心に考えて生活したほうがよい」

女性は結婚したら自分自身のことより家族を中心に考えて生活した方がよいにたいして、『そう思う』と回答したものは38.8%であり、前回調査(38.0%)より0.8ポイント増加した。
『そうは思わない』と回答したものは53.4%であり、前回調査(55.8%)より2.4ポイント減少しているが、依然として5割を超えている。

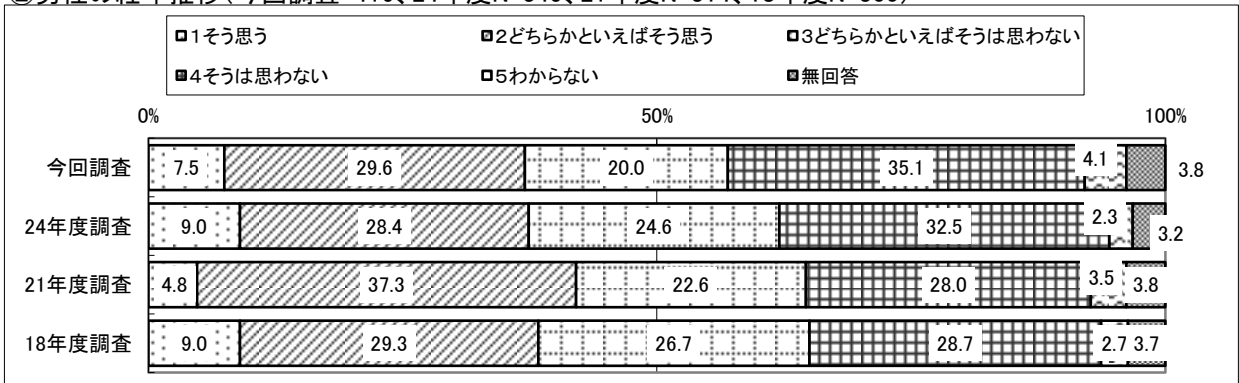
①合計(総数)の経年推移(今回調査=943、24年度調査N=770、21年度調査N=740、18年度調査N=621)



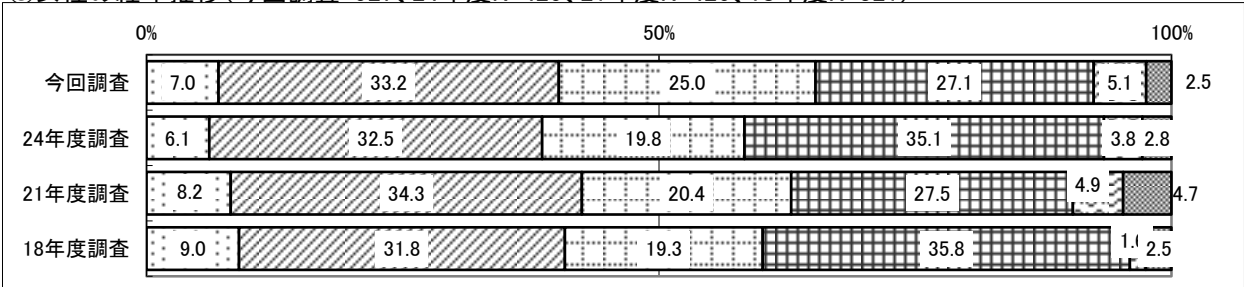
※15年度調査では「総数」と表記し、性別不明の回答者を含んだものを集計対象としている。

男女別にみると、男性で『そう思う』と回答したものは37.1%であり、前回調査(37.4%)より0.3ポイント減少している。
今回調査も含め4回の調査の中で最も少ない割合となった。
女性で『そう思う』と回答したものは40.2%であり、前回調査(38.6%)より1.6ポイント増加している。

②男性の経年推移(今回調査=416、24年度N=345、21年度N=314、18年度N=300)

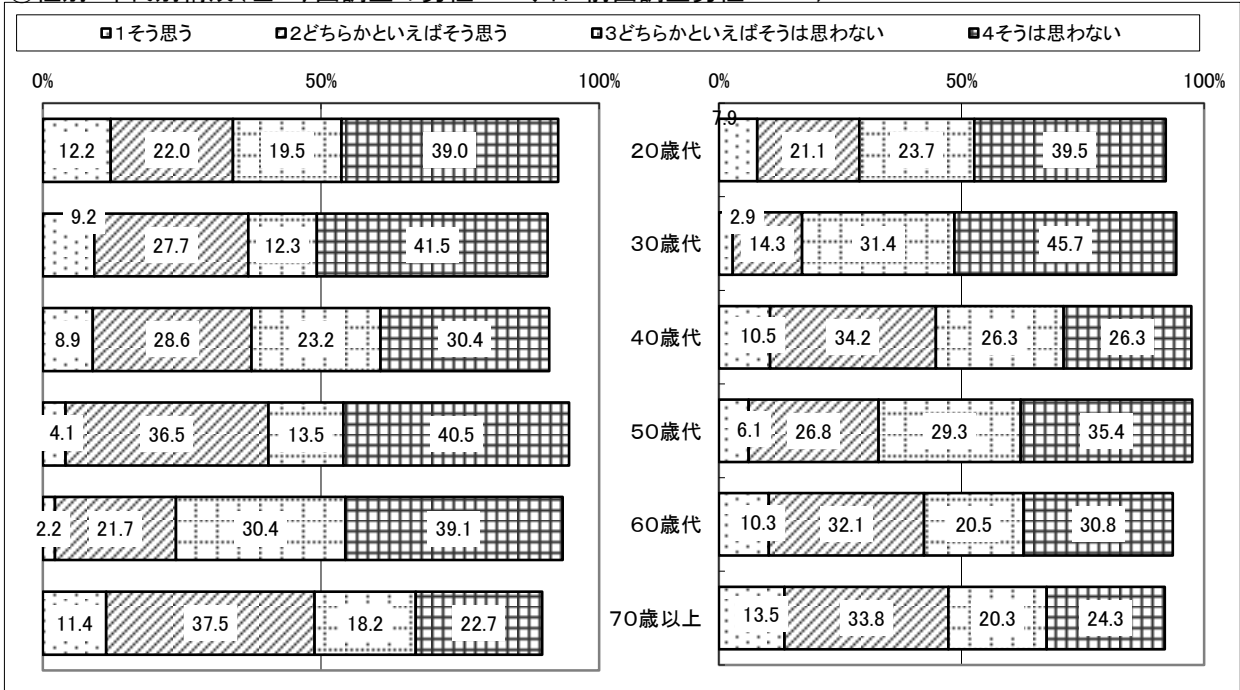


③女性の経年推移(今回調査=527、24年度N=425、21年度N=426、18年度N=321)



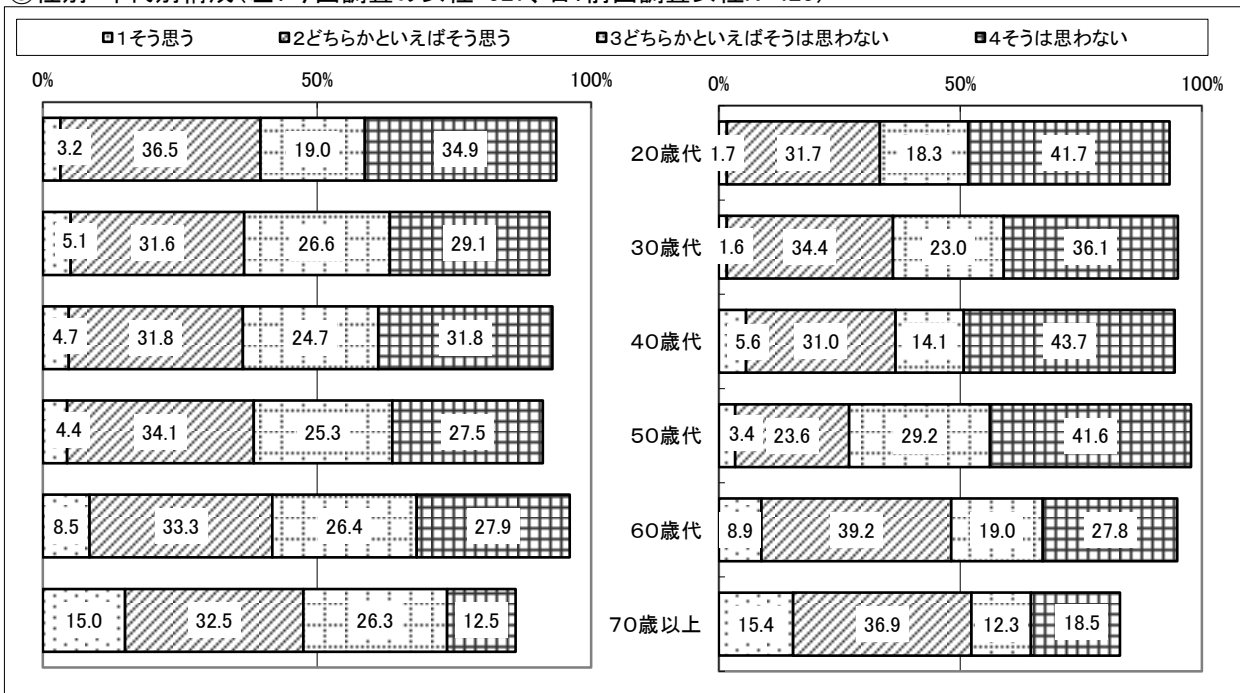
年代別・男女別にみると、男性で『そう思う』と回答したものが最も多いのは、男女共に「70歳以上」であり、男性48.9%、女性47.5%である。
この傾向は、前回調査と同様である。
男女差の最も大きかった年代は「60歳代」であり、男性(23.9%)と女性(41.8%)では、女性の方が17.9ポイント多い。

④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=416、右:前回調査男性N=345)



※グラフから一部のデータを省略した。今回調査データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

⑤性別・年代別構成(左:今回調査の女性=527、右:前回調査女性N=425)



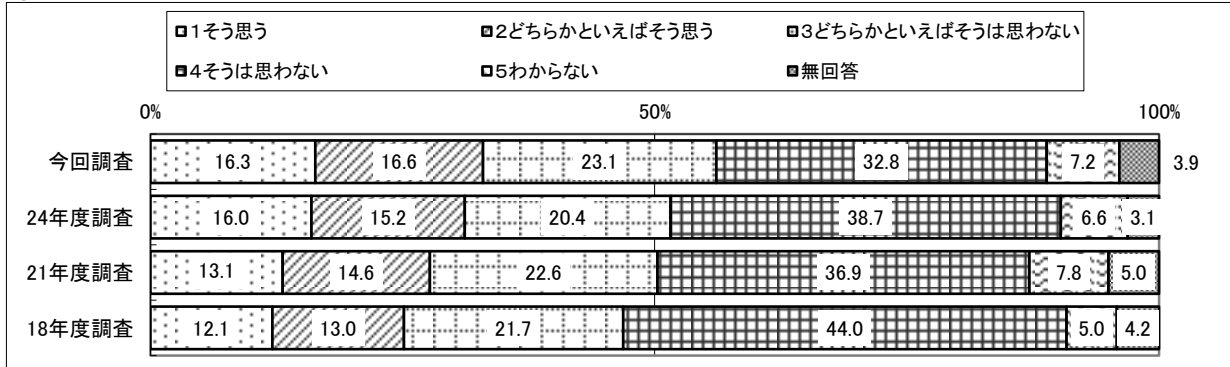
※グラフから一部のデータを省略した。今回調査データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

設問「③結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」

結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はないにたいして『そう思う』と回答したものは32.9%であり、前回調査(31.2%)より1.7ポイント増加、21年度調査(27.7%)より5.2ポイント増加、18年度調査(25.1%)より7.8ポイント増加しており、増加傾向で推移している。

また、『そうは思わない』と回答したものは55.9%であり、前回調査(59.1%)より3.2ポイント減少している。調査回数を重ねるごとに『そう思う』は増加し、『そうは思わない』は減少している。

①合計(総数)の経年推移(今回調査=943、24年度調査N=770、21年度調査N=740、18年度調査N=621)



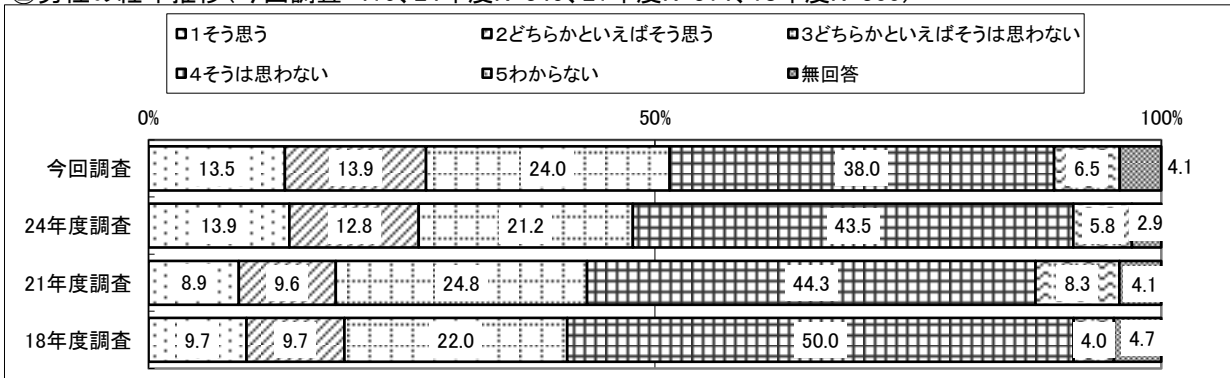
男女別にみると、男性で『そう思う』と回答したものは27.4%であり、前回調査(26.7%)より0.7ポイント増加している。

女性で『そう思う』と回答したものは37.4%であり、前回調査(34.8%)より、2.6ポイント増加している。

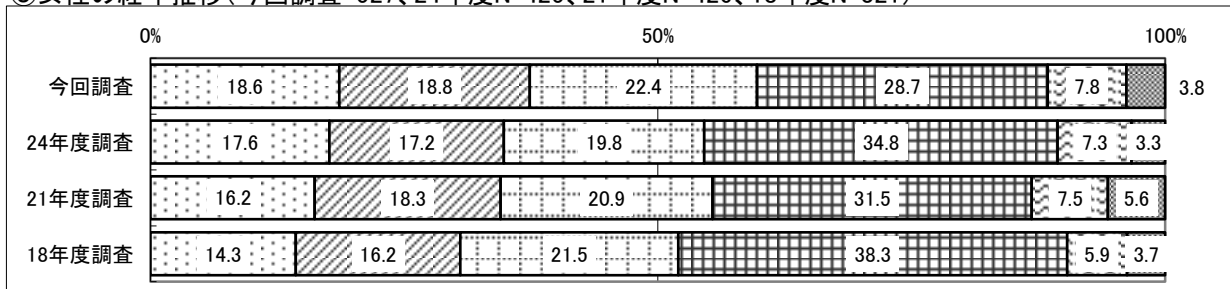
また、女性で『そう思う』と回答したものは、調査回数を重ねるごとに増加している。

『そう思う』と回答したものは、男女共に、今回調査を含めた調査の中で最も多い割合となっているが、どの調査においても、男性よりも女性の方が割合が多い。

②男性の経年推移(今回調査=416、24年度N=345、21年度N=314、18年度N=300)

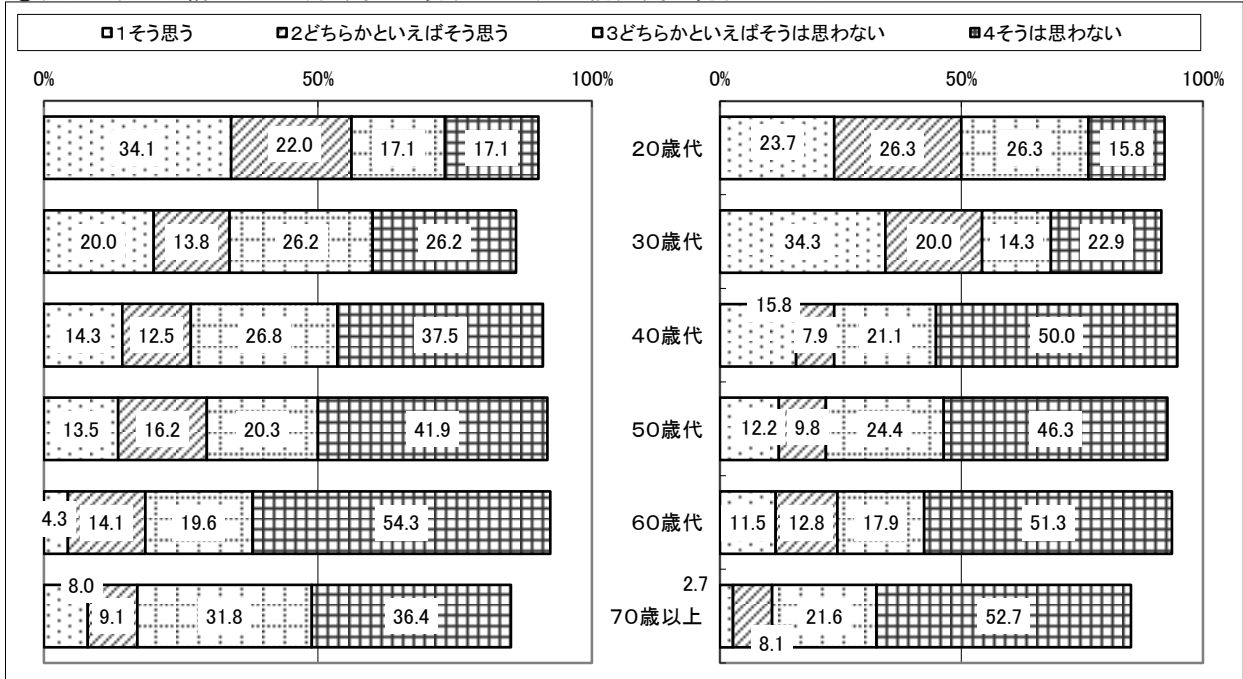


③女性の経年推移(今回調査=527、24年度N=425、21年度N=426、18年度N=321)



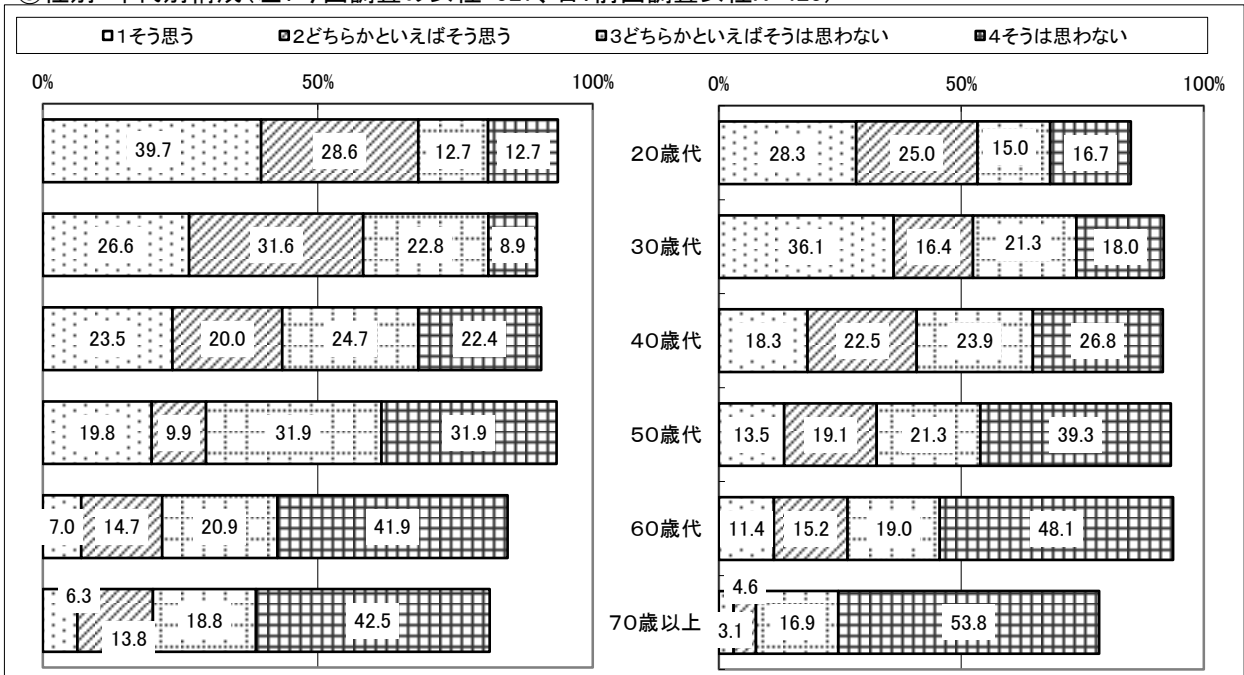
年代別・男女別にみると、『そう思う』と回答したものが最も多い年代は、男女共に「20歳代」であり、男性56.1%、女性68.3%である。
 『そう思う』と回答したものが5割を超えたものは、男性では「20歳代」(56.1%)だけであるが、女性は「20歳代」(68.3%)と「30歳代」(58.2%)の2つの年代で5割を超えている。
 女性で『そう思う』と回答したものは、年代が上がるにつれて減少しており、この傾向は前回調査と同様である。

④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=416、右:前回調査男性N=345)



※グラフから一部のデータを省略した。今回調査データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

⑤性別・年代別構成(左:今回調査の女性=527、右:前回調査女性N=425)

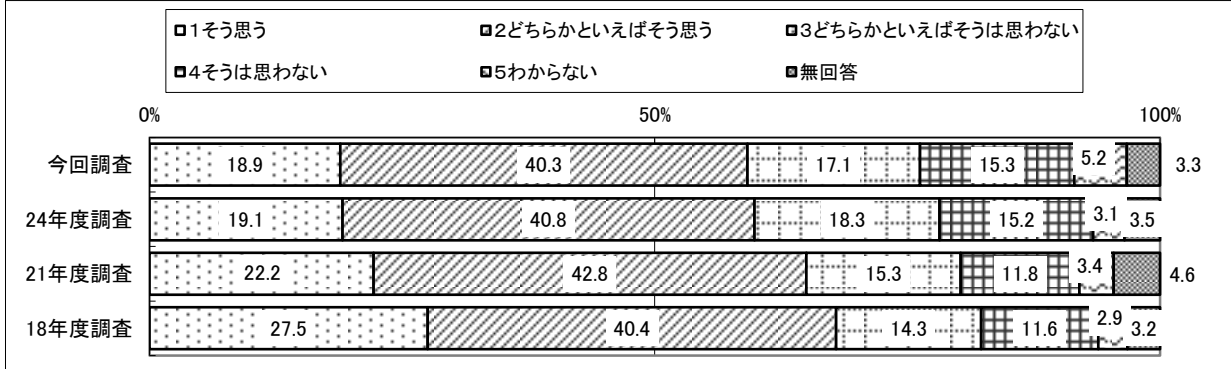


※グラフから一部のデータを省略した。今回調査データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

設問「④女性は仕事をもつのはよいが、家事、育児もきちんとすべきである」

女性は仕事をもつのはよいが、家事、育児もきちんとすべきであるにたいして、『そう思う』と回答したものは59.2%であり、前回調査(59.9%)より0.7ポイント減少しており、21年度調査(65.0%)より5.8ポイント減少、18年度調査(67.9%)より8.7ポイント減少しており、減少傾向で推移しているといえる。
『そうは思わない』と回答したものは32.4%であり、前回調査(33.5%)より1.1ポイント減少している。

①合計(総数)の経年推移(今回調査=943、24年度調査N=770、21年度調査N=740、18年度調査N=621)

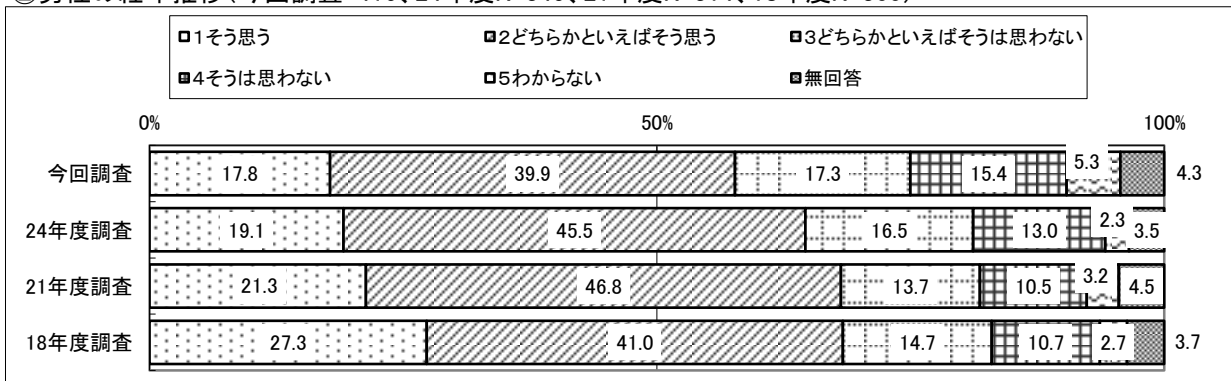


男女別にみると、男性で『そう思う』と回答したものは57.7%であり、前回調査(64.6%)より6.9ポイントと大きく減少している。

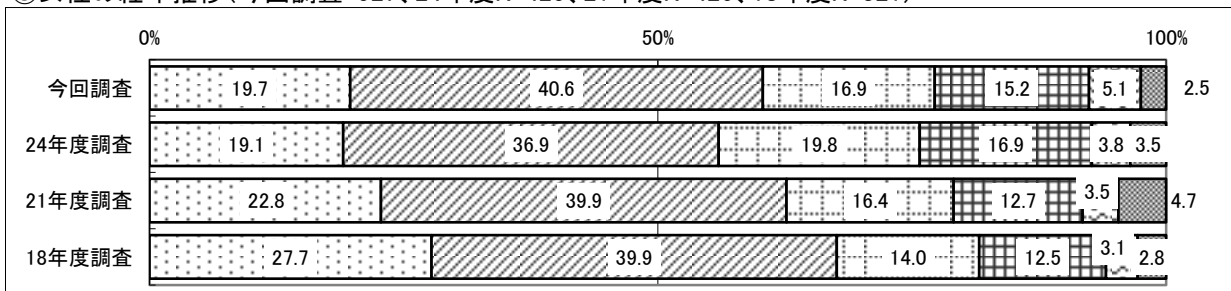
女性で『そう思う』と回答したものは60.3%であり、前回調査(56.0%)より4.3ポイント増加している。

今回調査を含めた4回の調査の中で唯一、『そう思う』と回答したものが男性よりも女性の方が多かった結果となった。

②男性の経年推移(今回調査=416、24年度N=345、21年度N=314、18年度N=300)

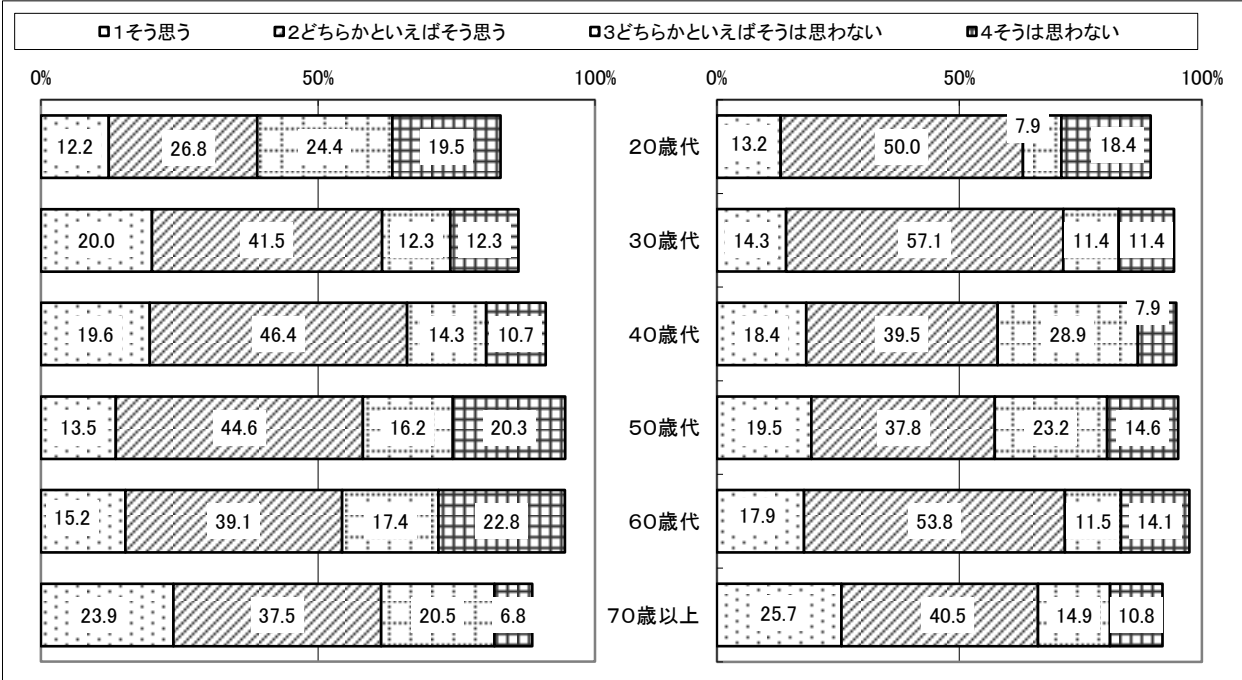


③女性の経年推移(今回調査=527、24年度N=425、21年度N=426、18年度N=321)



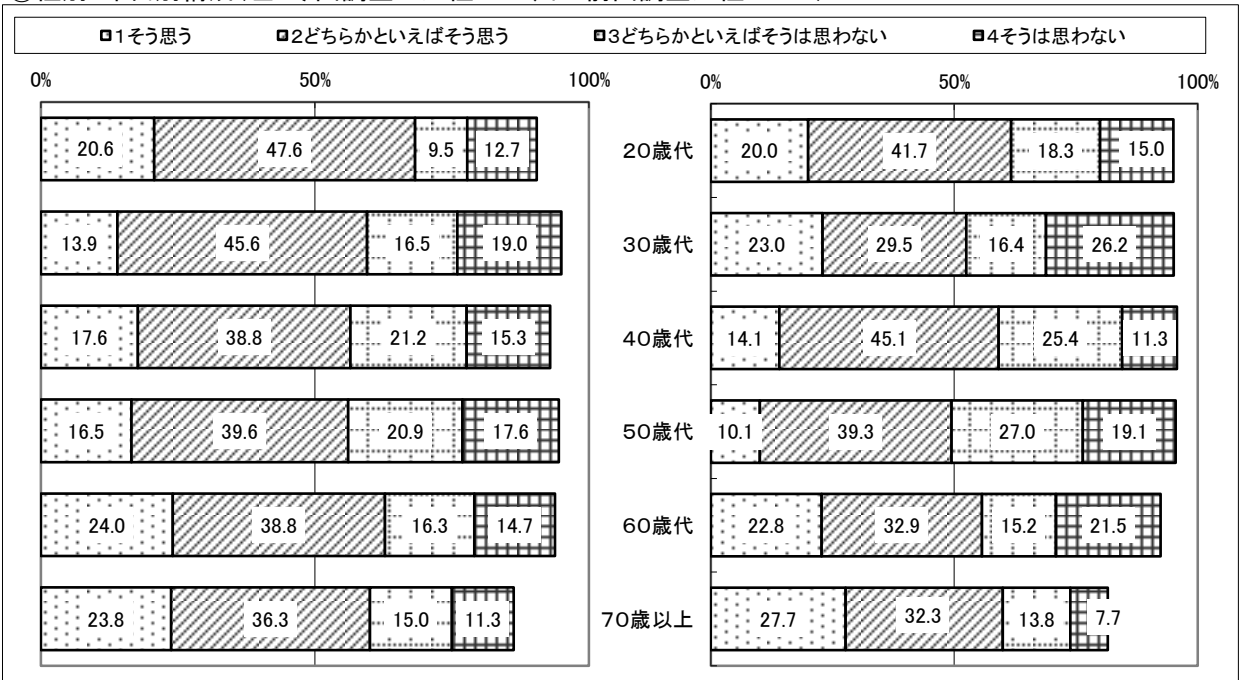
年代別・男女別にみると、『そう思う』と回答したものが最も多かった年代は男性は「40歳代」(66.0%)であり、女性は「20歳代」(68.2%)である。
 年代により最も差が大きかったのは「20歳代」であり、男性(39.0%)と女性(68.2%)では、女性の方が29.2ポイント多い。
 前回調査と比較して最も変化があらわれたのは「20歳代男性」(39.0%)であり、前回調査(63.2%)より24.2ポイントと大幅に減少している。

④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=416、右:前回調査男性N=345)



※グラフから一部のデータを省略した。今回調査データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

⑤性別・年代別構成(左:今回調査の女性=527、右:前回調査女性N=425)



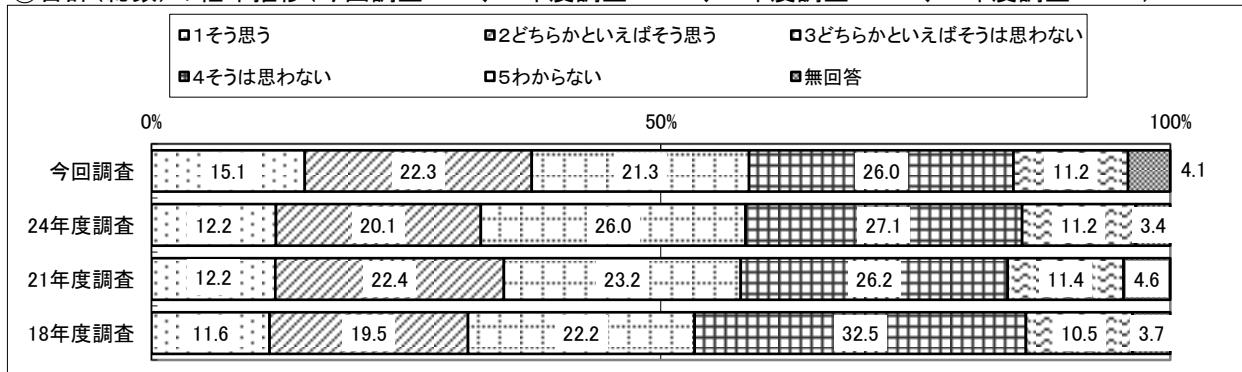
※グラフから一部のデータを省略した。今回調査データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

問11(3)離婚について

設問「⑤結婚しても、相手に満足できないときは離婚すればよい」

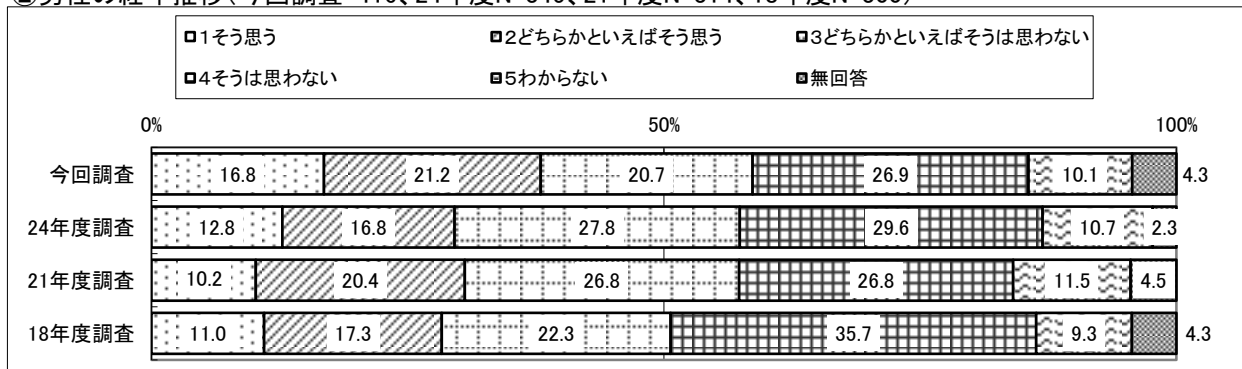
結婚しても、相手に満足できないときは離婚すればよいにたいして『そう思う』と回答したものは37.4%であり、前回調査(32.3%)より5.1ポイントと大きく増加した。
 今回調査も含めた4回の調査の中では最も多い割合となっており、最も少ない18年度調査(31.1%)より6.3ポイント増加している。
 『そうは思わない』と回答したものは47.3%であり、前回調査(53.1%)より5.8ポイントと大きく減少した。

①合計(総数)の経年推移(今回調査=943、24年度調査N=770、21年度調査N=740、18年度調査N=621)

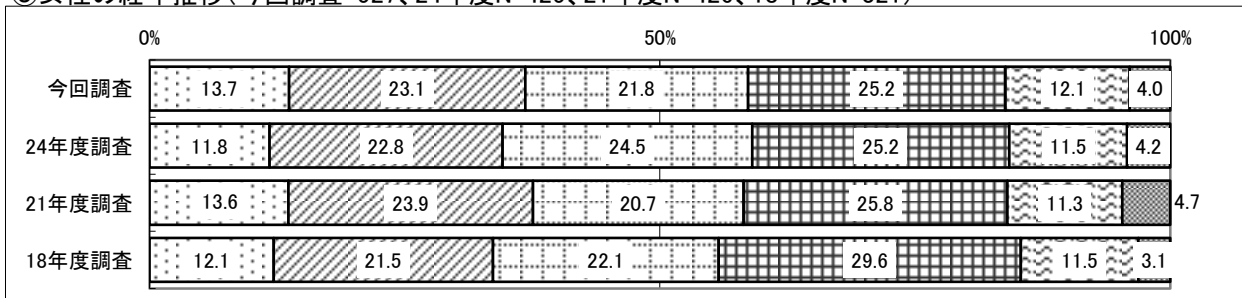


男女別にみると、男性で『そう思う』と回答したものは38.0%であり、前回調査(29.6%)より8.4ポイントと大幅に増加している。
 女性で『そう思う』と回答したものは36.8%であり、前回調査(34.6%)より2.2ポイント増加している。
 過去3回の調査では、『そう思う』と回答したものは男性よりも女性の方が多かったが、今回調査では、男性の方が多く、逆転している。

②男性の経年推移(今回調査=416、24年度N=345、21年度N=314、18年度N=300)



③女性の経年推移(今回調査=527、24年度N=425、21年度N=426、18年度N=321)

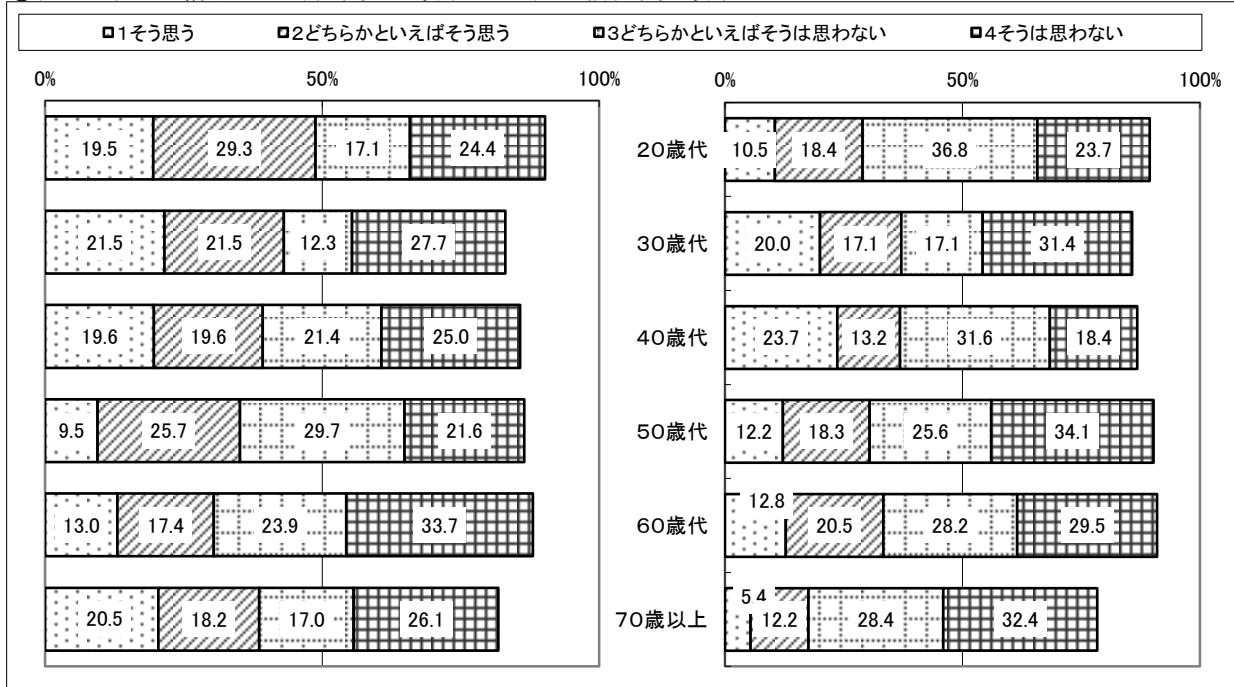


年代別・男女別にみると、『そう思う』と回答したものが最も多いのは、男性では「20歳代」(48.8%)であり、女性では「30歳代」(45.6%)である。

前回調査と比較して、もっとも大きな変化があったのは男性では「70歳以上」(38.7%)であり、前回調査(17.6%)より21.1ポイントと大幅に増加、次いで「20歳代」(48.8%)であり、前回調査(28.9%)より19.9ポイントと大幅に増加している。

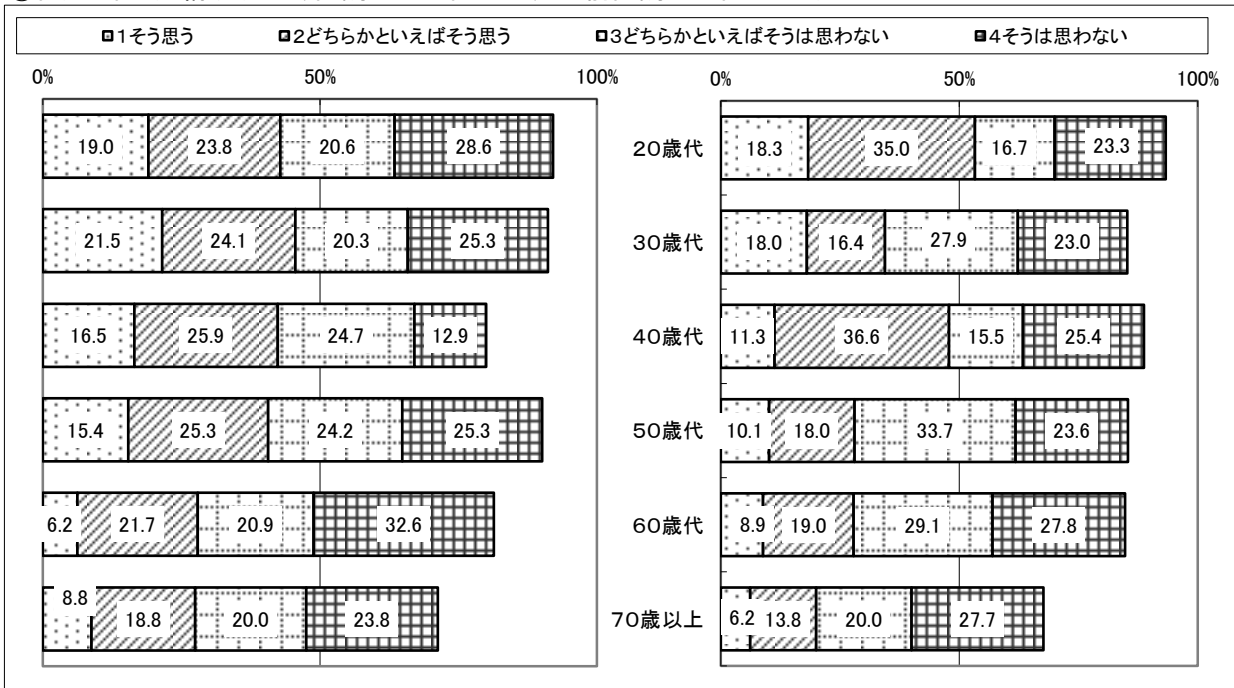
男女差が最も大きかった年代は「70歳以上」であり、男性(38.7%)と女性(27.6%)では、男性の方が11.1ポイント多い。また、「70歳以上」の男性の方が多く女性が少ないという結果は、前回調査と逆転した結果となっている。

④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=416、右:前回調査男性N=345)



※グラフから一部のデータを省略した。今回調査データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

⑤性別・年代別構成(左:今回調査の女性=527、右:前回調査女性N=425)



※グラフから一部のデータを省略した。今回調査データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

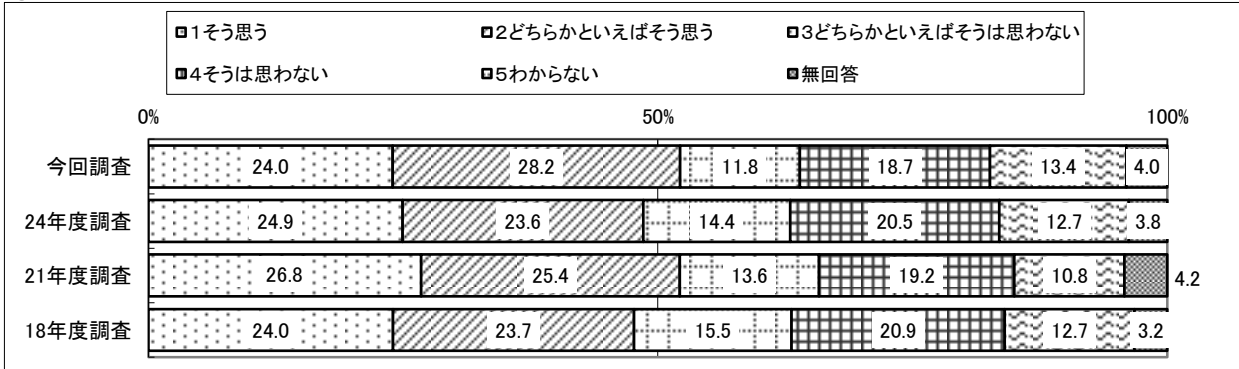
設問「⑥一般に、今の社会では、離婚すると女性の方が不利である」

離婚すると女性の方が不利であるかについて、『そう思う』と回答したものは52.2%であり、前回調査(48.5%)より3.7ポイント増加している。

21年度調査と同様に過半数を超えている。

『そうは思わない』と回答したものは30.5%であり、前回調査(34.9%)より4.4ポイント減少している。今回調査を含め4回の調査の中では最も少ない割合となっているが、依然として3割を超えている。

①合計(総数)の経年推移(今回調査=943、24年度調査N=770、21年度調査N=740、18年度調査N=621)

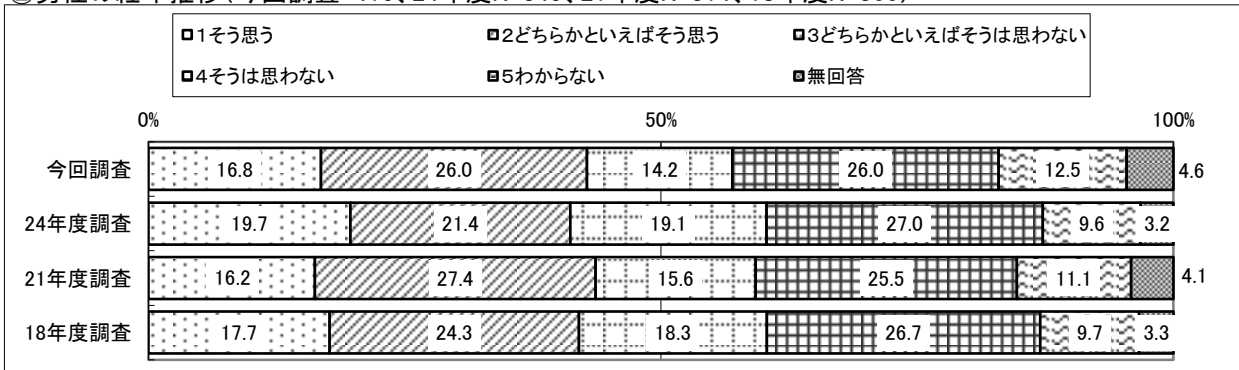


男女別にみると、男性で『そう思う』と回答したものは42.8%であり、前回調査(41.1%)より1.7ポイント増加している。

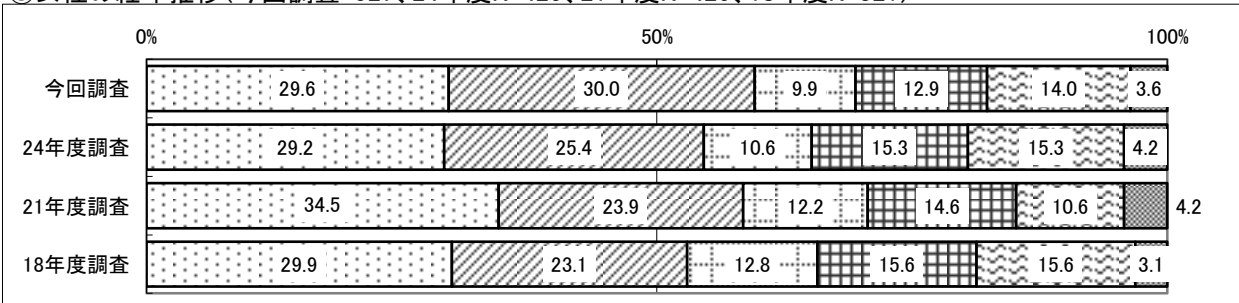
女性で『そう思う』と回答したものは59.6%であり、前回調査(54.6%)より5ポイントと大きく増加している。また、今回調査を含めた4回の調査の中で最も多い割合となっている。

『そう思う』と回答したものは、男性よりも女性の方が多く、この傾向は過去調査においても同様の傾向である。

②男性の経年推移(今回調査=416、24年度N=345、21年度N=314、18年度N=300)

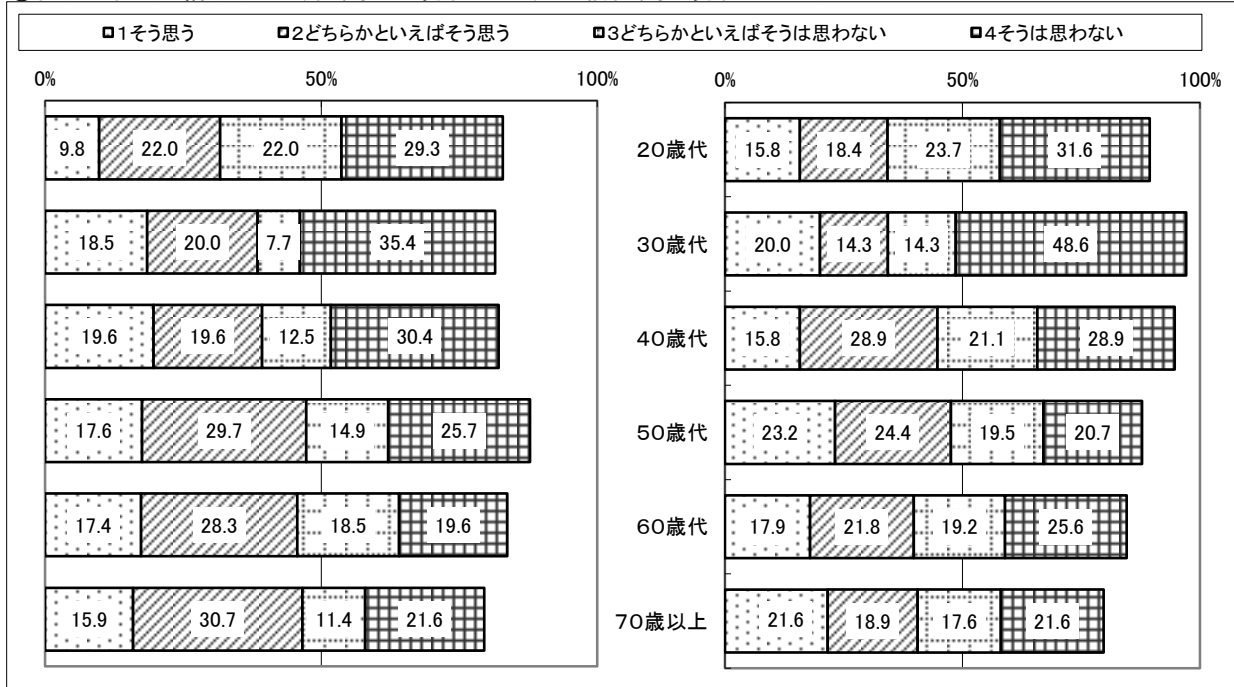


③女性の経年推移(今回調査=527、24年度N=425、21年度N=426、18年度N=321)



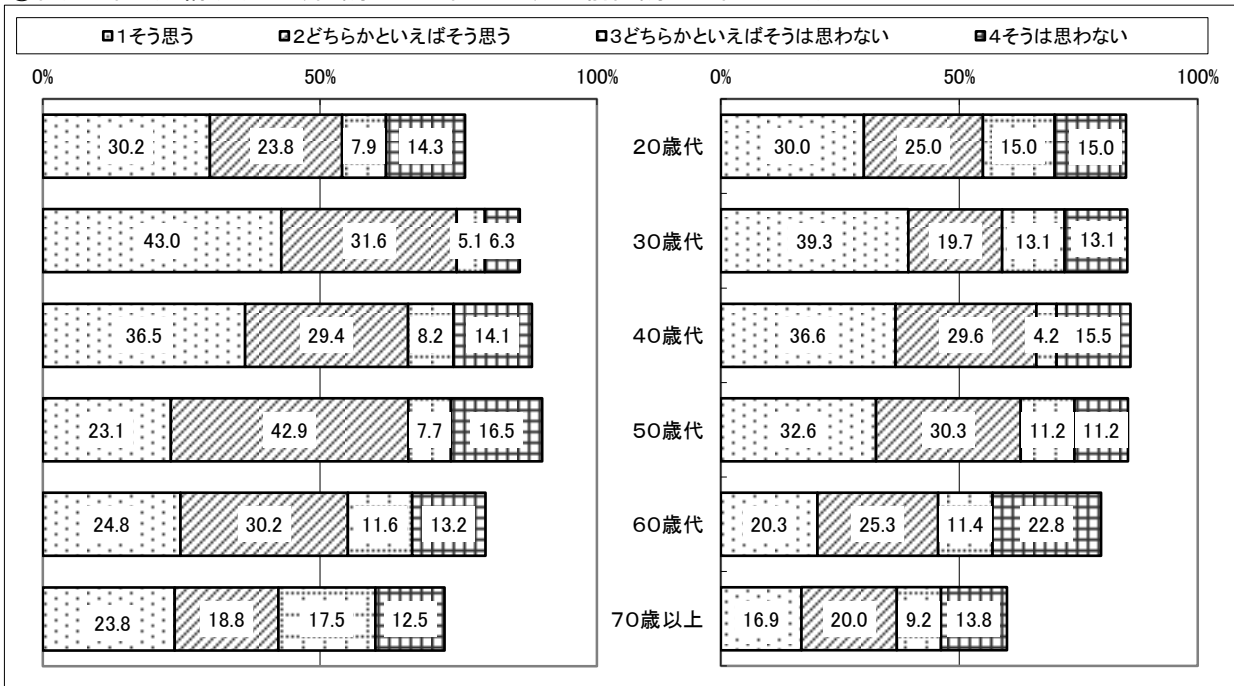
年代別・男女別にみると、男性で『そう思う』と回答したものが最も多い年代は「50歳代」(47.3%)であり、女性では「30歳代」(74.6%)である。
 「20歳代」から「60歳代」まで、男性よりも女性の方が『そう思う』と回答した割合が多い。
 最も年代差があったのは「30歳代」であり、男性(38.5%)と女性(74.6%)では、女性の方が36.1ポイント多い。他に、20ポイント以上の差があったのは「20歳代」と「40歳代」であり、それぞれ22.2ポイント、26.7ポイント女性が多い。
 「70歳以上」では『そう思う』と回答したものは男性(46.6%)の方が、女性(42.6%)より4ポイント多く、逆転している。

④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=416、右:前回調査男性N=345)



※グラフから一部のデータを省略した。今回調査データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

⑤性別・年代別構成(左:今回調査の女性=527、右:前回調査女性N=425)



※グラフから一部のデータを省略した。今回調査データの詳細は、「Ⅳ 基礎集計表」の各表を参照

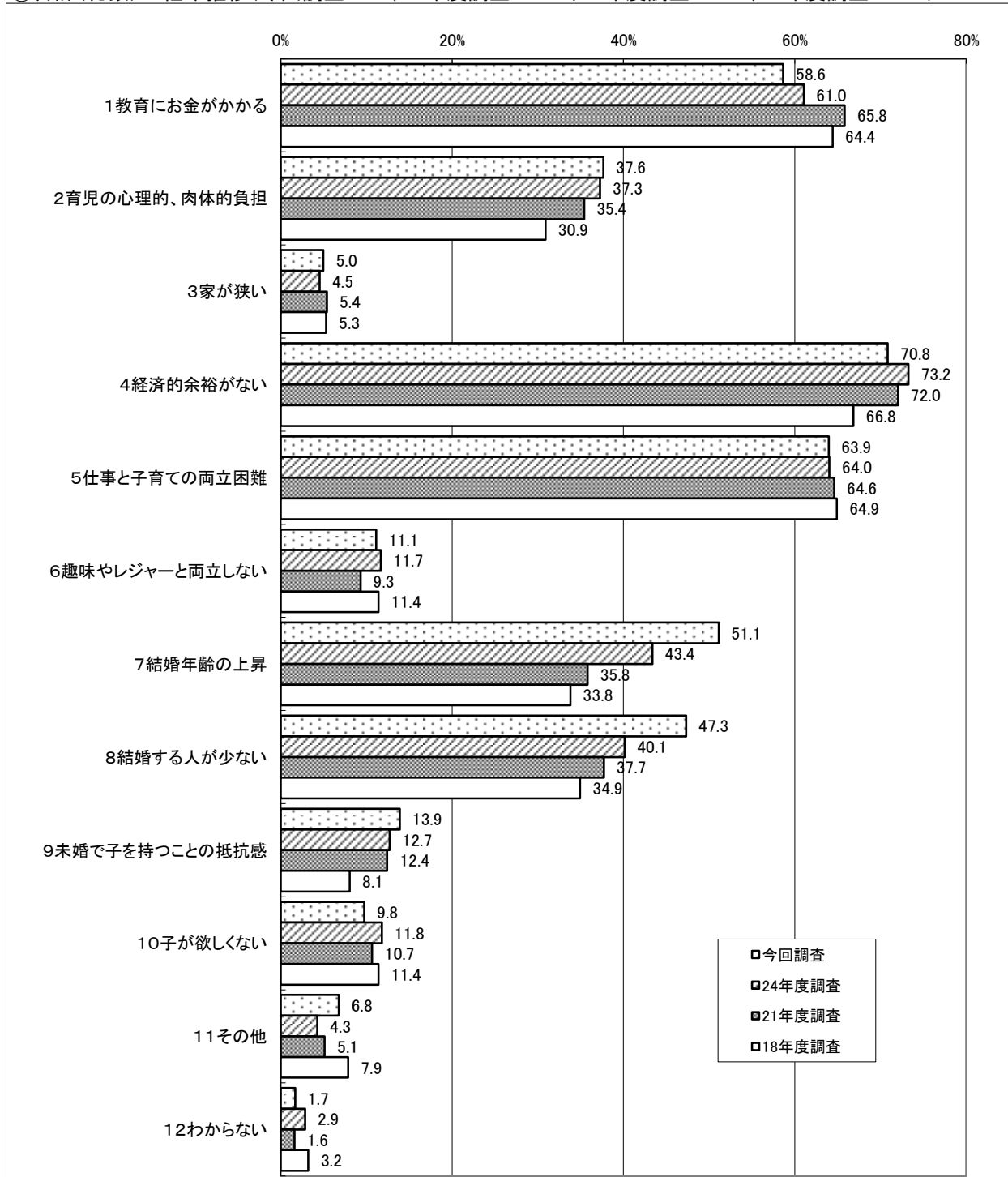
問12 最近、出生数が少なくなっていますが、あなたはその理由は何だと思えますか。
 次の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。
 (N=943 男性=416 女性=527)

出生数が少なくなっている理由は「経済的余裕がない」(70.8%)が最も多く、次いで「仕事と子育ての両立困難」(63.9%)、「教育にお金がかかる」(58.6%)と続く。

この傾向は、過去調査においてもほぼ同様の傾向にある。

「育児の心理的、肉体的負担」(37.6%)、「結婚年齢の上昇」(51.1%)、「結婚する人が少ない」(47.3%)は、調査回数を重ねるごとに増加しており、特に「結婚年齢の上昇」は今回調査において5割を超えた。

①合計(総数)の経年推移(今回調査=943、24年度調査N=770、21年度調査N=740、18年度調査N=621)



「その他」の記述

相手を選定する能力の不備、自身の生活力
欲しいのに出来ない。身体的に変わって来ている

・女性が社会に進出し長く働く社会になったことで結婚をする動機が減少・仕事が主軸になった女性にとって育児や結婚は「負担」という価値観が形成された・経済的な観点から結婚を見る女性が社会化により増加、男性の収入や育児家事への協力要求が厳しくなった。上記により、男性側も女性に対して結婚の必要性、魅力がなくなった。結果、結婚の減少、少子化に拍車がかかる結果となった。

将来について見通しがもてない。パート、フリーターなど就業形態が安定せず希望がもてない。
戦後の人口抑制策が成功したため 日本で養える人工が飽和したため(人口が限定に達したため)

子供を育てる自信がないから

受精率が低くなっている

将来が不安だから(収入、保険、年金等)

・結婚しなくても許される為。・経済的に余裕があるから(親と同居等により)

不妊(同意見6)

病気しているとか

人としての責任感の欠け。

保育施設など子供を預けられる施設がない

不妊治療への対策が十分でないから

身近な人に小さい子供と接する機会がへってきて、子供の存在を理解できないのでは？

出産後に仕事を続けることが困難な環境だから。保育園に入れない、保育料が高い、etc

仕事をするのは大切ですがそれに伴い子供をもつことをおっくうがる。

育児を理有に仕事を休む事が困難な現実がある。

就職して収入が定まっていな方とは結婚したとしても不幸になると思う女性、親がいて当然と思う

精神年齢が低い大人が多い。感覚が子供のままで大人になれていない。地域で子育てをする余裕がない。安全、安心できる場が少ない。

子育てに対する職場の理解

親の働く場所がない生活していけないから

自然、社会、政治環境が低下しつつあるから

保育施設に入れるのに苦勞するから。

結婚に希望が持てないから

消費税があがるのがこわい。あがって給料があがるのは大企業のみで中小企業はあがらず、そのくせにまた消費税をあげようとしていて頭がおかしいとしか思えない。

性を忌避するようになったこと

労働環境がかくくで、産めない身体、流産しやすい身体になっている人が、周りに多い。

育児時間があまりないから

生活スタイルの変化、女性の社会進出個人の考え方の自由(生き方)

子どもを産むことが自分の人生にとってトータルして損だから

女性の負担が多いことが予想できる環境だから

子どもに対して社会の理解が減少してきているから

お産にお金がかかる、検診等にも

子供が少ないと、その分生活にゆとりが出るから。

異性とかかわることへの不安、自信のなさをかかえる人が多いから。

保育所が少ない。もっと子育てのための補助金等考えるべき。医療費も高校生ぐらいまで助成してほしい。

労働時間が増えてきている。そのため、プライベートな時間がなく、恋愛や結婚までに至らない。

昔のように結婚のお世話をしてくれる人がいない。

余裕を持って子育てを楽しめる社会じゃないから。パートだと、産休中お金が出ない、育休中の収入が少ない等、経済的にはもちろん、仕事に戻った後、子どもが病気の時に休みが取りづらい等、社会的なサポートが、少ない。働かなきゃ生活できないが、働く為に預ける保育園の保育料にほとんど持っていかれる(泣)等・・・。

地元で職がなく家族の協力のもと子育て出来る環境にないから。

社会が危険で、自然も破壊されていく中で子育てする事に不安を感じる。子どもの将来に良いものを与えられないと思う。毎日のニュース・報道で、子ども、社会の悲しいニュースが多すぎる。

日本のシングルマザーに対する制度がきちんとされていない。

子供を育てるにあたって社会、地域の環境が良くない！！

人は、自由に子供を持つことができるが反面、その社会的責任をわかっていない風潮。

性教育不足で子供をもてる身体がない。(男女)

子どもを産んだ後の支払いが高いし、子ども3人欲しくても、**例えば、保育園、給食費など、どうしてもお金がないと育てられない。子どもをもつ事を考える。**

初任給が初めから高すぎる

知的、生活、精神水準が上っているので仕方のないこと。

税金ばかりとられて給料が少ない

子育てをしてもほめてくれる人がいないから

そも々仕事を持つのは悪い

私には子供4人いますが、どうにかなっています。ただ、両親と同居のため、親に子供をみてもらってきたのも事実です。親がいなかったら子供4人もてたか？

何かにつけ男女平等とやりにこだわるから

少しずつだが、女性も社会で活やくできる場ができてきているから。産休、育休等の制度がまだ完ペキじゃないから。ノリにのってる人は、わざわざ産むから仕事やめて、また探す(職を)というのは面倒だし難しいから。給料が少ないから男女でかせぐ必要があるから。

仕事に手一杯で機会が無い。

自己中心的な考えからではないですか。

※「その他」の記述については、誤字を含め可能な限り原本の表記に従った。

※ただし、地域や個人が特定される恐れのある単語は「□」と表記したほか、「わからない」「特になし」や、男女共同参画に関係ない記述は省略した。